平成27年度　東大和市・東村山市地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業　報告書

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

平成 27 年度

# 東大和市・東村山市
# 地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業

# 報 告 書

平成 27 年 12 月

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

# 東大和市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会
委員長
東大和市長　尾崎　保夫

東大和市は、平成2年10月1日、核兵器の廃絶と恒久平和を願い、「東大和市平和都市宣言」を行いました。これは、世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願ったものです。

今年は、戦後70年の節目の年です。戦争を体験した方々もご高齢になり、戦争を語り継ぐことが難しくなっております。そして、戦後生まれの戦争を知らない世代に、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えていくことが、ますます重要になってきていると感じております。

こうした中、戦争の傷跡を残す施設や資料が存在する東大和市と東村山市が連携し、中学生を対象とした「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を、東京都市長会の多摩・島しょ広域連携活動助成金（子ども体験塾）の交付を受け実施しました。この事業の目的は、戦争の悲惨さや命の尊さについて考え、平和意識の高揚を図ることです。

参加した中学生は、初めに、身近な地域である東大和市、東村山市においても戦争の被害があったことを学習し、その後、広島市に行き、世界で初めて核兵器が使われた惨状の記録と記憶を実際に見聞してきました。

この事業を通して、現在の平和な世の中が多くの先人たちの犠牲や努力の上で築かれたものであることを学び、その平和の大切さを次世代に伝えていくことが、いかに重要であるかを学習したと思います。実際に、派遣後に実施しました報告会におきましても、中学生からそのような言葉を耳にすることができ、この事業を実施した意義を感じております。

これから、中学生の皆さんには、恒久平和を実現するために、この事業の成果を発揮していただき、この事業で経験したことを、さらに次の世代に伝えていっていただくことを期待しております。

また、私は、今年11月に広島市で開催されました第5回平和首長会議国内加盟都市会議総会に出席しました。平和首長会議は、昭和57年の設立以来、世界の都市と連携し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けております。総会に出席する中で、私自身、平和への願いをより一層強くしたところです。東大和市としましても、平和首長会議国内加盟都市の一員として、「核兵器のない世界」の実現に向けて、今後も様々な取組みを通じて、平和の大切さを伝え続けてまいりたいと思っております。

結びに、「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」にご参加いただきました中学生及びその保護者の皆様、また、事業実施に向けてご協力いただきました多くの皆様に心から御礼を申し上げます。

平成27年12月

# 東村山市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会
副委員長
東村山市長　渡部　尚

昭和20年8月、広島と長崎に投下された原子爆弾は、一瞬にして数十万の尊い命を奪いました。多数の建物が破壊され、一面が廃墟と化しただけではなく、かろうじて生き延びた人にも筆舌に尽くしがたい苦痛を強いました。そして、今もなお、被ばくによる後遺症に苦しめられている方々がいます。

日本は唯一の被爆国として、これらの事実を決して忘れず、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さを後世に、世界に伝えていく責務があります。

当市に於いては、昭和39年の市制施行と同時に「平和都市宣言」を、また昭和62年に「核兵器廃絶平和都市宣言」をし、核兵器や戦争のない平和な社会の実現に向けて努力してまいりました。

しかし、世界に目を向けますと、今年5月にニューヨークの国連本部で5年ぶりに開催された核不拡散条約再検討会議は、最終文書を採択することができず、事実上会議は決裂し、核軍縮の歩みは停滞を余儀なくされている状況です。

その一方で、今年7月に、イギリスの調査会社が行ったアメリカ人の世論調査では、「日本への原爆投下は正しかったか」の問いに対し、全体では46%が「正しい」と回答し、「誤り」とした29%を上回りましたが、18歳から29歳までの世代では、31%が「正しい」と回答しているのに対し、「誤り」とする回答が45%となり、「正しい」を上回っているとの報道がありました。

こうしたアメリカ世論の変化は、戦後、被爆者の方々が先頭に立って、世界に向け地道に原爆の実相を伝え、核兵器廃絶と世界平和を訴えてきた成果に他なりません。

今年、戦後70年という節目の年を迎え、戦争を体験された方々がご高齢になる中、次代を担う子どもたちへ、戦争の事実と当時の人々の思いや平和の尊さを伝え、平和に対する意識の高揚を図ることを目的とし、東京都市長会の多摩・島しょ広域連携活動助成金（子ども体験塾）の交付を受け、「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を東大和市との連携により実施致しました。

参加した中学生たちは、自分たちの住む地域並びに広島で、戦争の悲惨さや平和の尊さについて学び、報告書には、2度と戦争を起こさないために自分たちが被爆体験を語り継ぎ、平和の尊さを伝えていきたいという決意を綴っています。

皆さまにもぜひお読みいただき、平和について考える機会としていただきたいと思います。

結びに、本事業にご参加いただきました中学生及びその保護者の皆様、事業の実施にあたりご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

平成27年12月

# 目　次


1 実施概要・日程 …… 4

2 参加者名簿 …… 5

3 地域の戦争・平和学習会 …… 6

4 広島派遣 …… 8

5 報告会 …… 12

6 参加者感想文

Ａグループ …… 17

Ｂグループ …… 22

Ｃグループ …… 29

Ｄグループ …… 34

Ｅグループ …… 38

7 参加者アンケート …… 44

8 資　料

東大和市平和都市宣言 …… 48

東村山市核兵器廃絶平和都市宣言 …… 49

# 1 実施概要・日程

## 1 事業の趣旨・目的

東大和市と東村山市の中学生が、自分たちが住んでいる身近な地域でさえも戦争の脅威にさらされていたことを学習するとともに、世界で初めて核兵器が使われた広島市の惨状の記録と記憶を実際に見聞することで、戦争の悲惨さや命の尊さについて考え、平和意識の高揚を図ります。

## 2 実施経過

- **7月9日(木) 東大和市、7月10日(金) 東村山市**
  地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業の事前説明会
- **7月24日(金)**
  地域の戦争・平和学習会（東大和市・東村山市）
- **8月5日(水)～7日(金)　2泊3日**
  広島派遣事業（広島県広島市・呉市）
- **8月11日(火)**
  報告会準備（東村山市役所）
- **8月15日(土)**
  報告会（東大和市：「平和市民のつどい」）
- **8月30日(日)**
  報告会（東村山市：「平和のつどい」）

## 3 広島派遣日程

| 日次 | 月日(曜) | 行程 | 宿泊地 |
|---|---|---|---|
| 1 | 8/5(水) | ●集合時間　東大和市駅9:00　東村山駅9:00<br>東大和市駅・東村山駅 ― 10:57 品川駅 ― JR新幹線利用(のぞみ107号) ― 14:53 広島駅 ― 16:00頃 **広島市青少年センター** ― 19:00<br>【昼食：車中にてお弁当】<br>16:15 **広島被爆者体験講話聴講**<br>18:00 とうろう作成、グループワーク<br>19:30～20:30 夕食 ― 20:45 ホテル | 広　島 |
| 2 | 8/6(木) | 7:00 ホテル（朝食） ------ **広島平和記念公園** 7:15頃 **(式典参加)** ------ 9:30頃 **原爆ドーム** ― **「呉」で平和学習** ― 11:00頃 **「呉湾見学」**(貸切船)<br>式典：8:00～8:45<br>※式典に参加し、原爆死没者に哀悼の意を表し、恒久平和の実現を祈る。<br>※海上自衛隊自衛官OBによる案内で、呉湾を巡りながら、平和について学習する。<br>12:30頃 昼食 ― 13:30頃 **大和ミュージアム** ― 15:00頃 海上自衛隊呉資料館 **てつのくじら館** ―<br>※平和の大切さ、高度な科学技術を学ぶ(ガイド案内)<br>17:20頃 平和記念公園 ------ 17:30 **流灯式** ------ 18:00 **とうろう流し** ― 19:20頃 ホテル（夕食） | **ANAクラウンプラザホテル広島** |
| 3 | 8/7(金) | 8:30 ホテル（朝食） ― 9:00 **広島平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館・原爆の子の像** ― 10:30頃 ― 11:30頃 広島駅 ― 12:13 JR新幹線利用(のぞみ24号) ― 16:13 東京駅 ― 東大和市駅・東村山駅<br>【昼食：車中にてお弁当】<br>※戦争や原爆に関する資料に触れ、平和について学習する。<br>●到着時間　東大和市駅18:00頃　東村山駅18:00頃 | |

# 2 参加者名簿

## 地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業グループ

| 市 | グループ | 報告会 | 名前 | 学校 | 学年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 東村山市 | A | 8月15日 | 飯沼（いいぬま） 未咲子（みさこ） | 東村山市立東村山第三中学校 | 2年 |
| 東大和市 | A | 8月15日 | 木村（きむら） 洋斗（ひろと） | 東大和市立第五中学校 | 2年 |
| 東村山市 | A | 8月15日 | 木村（きむら） 蓮杏（れあ） | 東村山市立東村山第四中学校 | 2年 |
| 東大和市 | A | 8月15日 | 中﨑（なかさき） 萌夏（ともか） | 東大和市立第四中学校 | 1年 |
| 東村山市 | A | 8月15日 | 西岡（にしおか） 憲志朗（けんしろう） | 創価中学校 | 3年 |
| 東大和市 | B | 8月30日 | 猪股（いのまた） 詩織（しおり） | 東大和市立第四中学校 | 1年 |
| 東村山市 | B | 8月30日 | 小川（おがわ） 紗果（さやか） | 東村山市立東村山第三中学校 | 2年 |
| 東大和市 | B | 8月30日 | 登丸（とまる） 栞奈（かんな） | 東大和市立第四中学校 | 2年 |
| 東村山市 | B | 8月30日 | 永木（ながき） 理子（りこ） | 東村山市立東村山第七中学校 | 3年 |
| 東大和市 | B | 8月30日 | 中野（なかの） 雄基（ゆうき） | 東大和市立第一中学校 | 2年 |
| 東村山市 | B | 8月30日 | 西岡（にしおか） 大誓（だいせい） | 創価中学校 | 3年 |
| 東村山市 | C | 8月30日 | 大前（おおまえ） 遥（はるか） | 東村山市立東村山第三中学校 | 2年 |
| 東大和市 | C | 8月30日 | 小野（おの） ひな子（こ） | 東大和市立第四中学校 | 1年 |
| 東大和市 | C | 8月30日 | 関谷（せきや） 春香（はるか） | 武蔵野女子学院中学校 | 3年 |
| 東大和市 | C | 8月30日 | 長井（ながい） 佳憲（よしのり） | 東大和市立第一中学校 | 3年 |
| 東村山市 | C | 8月30日 | 依田（よだ） 和馬（かずま） | 東村山市立東村山第二中学校 | 2年 |
| 東村山市 | D | 8月30日 | 石井（いしい） 和慶（かずみち） | 東村山市立東村山第七中学校 | 2年 |
| 東村山市 | D | 8月30日 | 井上（いのうえ） 和姫（かない） | 東村山市立東村山第五中学校 | 2年 |
| 東大和市 | D | 8月30日 | 菊池（きくち） 陽生（ようせい） | 東大和市立第五中学校 | 2年 |
| 東大和市 | D | 8月30日 | 佐々木（ささき） まりん | 東大和市立第四中学校 | 1年 |
| 東村山市 | D | 8月30日 | 菅原（すがわら） 万由（まゆ） | 東村山市立東村山第三中学校 | 2年 |
| 東大和市 | E | 8月15日 | 片岡（かたおか） 日菜（ひな） | 東大和市立第四中学校 | 2年 |
| 東村山市 | E | 8月15日 | 下川（しもかわ） 隼輝（しゅんき） | 東村山市立東村山第六中学校 | 2年 |
| 東大和市 | E | 8月15日 | 田島（たじま） 知佳（ちか） | 東大和市立第四中学校 | 1年 |
| 東村山市 | E | 8月15日 | 十時（ととき） 美優（みゆ） | 東村山市立東村山第三中学校 | 3年 |
| 東村山市 | E | 8月15日 | 平山（ひらやま） 雅章（まさあき） | 東村山市立東村山第五中学校 | 3年 |
| 東大和市 | E | 8月15日 | 藤井（ふじい） 馨一朗（けいいちろう） | 東大和市立第三中学校 | 1年 |

# 3 地域の戦争・平和学習会

中学生たちは、7月24日（金）に、東大和市と東村山市の施設を見学し、自分たちが住んでいる身近な地域でも戦争の被害があったことを学びました。

## ●スケジュール

| 時　間 | 内　容 |
|---|---|
| 午　前 | 東村山ふるさと歴史館見学 |
| | 東大和市指定文化財・旧日立航空機㈱変電所見学 |
| 昼　食 | |
| 午　後 | 東大和市立郷土博物館見学 |
| | グループワーク |

## ●午前

### 1 東村山ふるさと歴史館見学

- 東村山ふるさと歴史館は、文化保護や歴史収集を進め、東村山市の歴史に関る展示等を開催しています。
- この学習会時には、終戦70年企画展「東村山地域をめぐる銃後と前線」を開催しており、「銃後」と「前線」という対立する言葉で、戦時中から戦後の東村山市の状況を概観しました。

### 2 東大和市指定文化財・旧日立航空機株式会社変電所見学

- 旧日立航空機株式会社変電所は、昭和13年に建設された軍需工場の変電施設で、昭和20年の米軍の空襲による傷跡を残しています。戦後、経営母体が変わっても修理されないまま平成5年まで操業を続け、平成7年に東大和市の文化財に指定されました。
- この学習会時には、普段は公開していないこの変電所施設に入り、空襲による弾痕などの生々しい状態を、施設の内部からも目の当たりにし、当時の状況が凄まじかったことを実感しました。

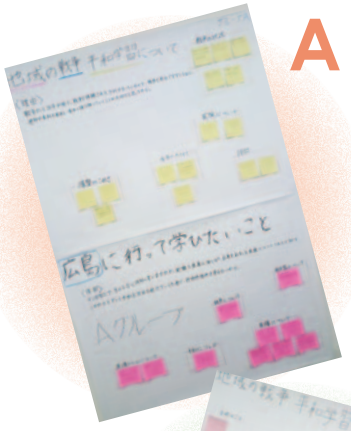
## ●午後

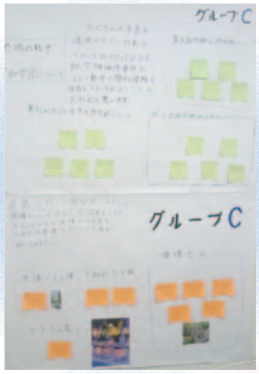
### 3 東大和市立郷土博物館見学

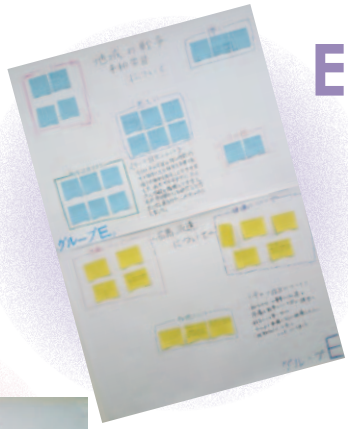
- 郷土博物館は、「狭山丘陵とくらし」をメインテーマとし、狭山丘陵全体を活動の舞台として、郷土の歴史、民俗、自然に関する事業を行なっています。また、プラネタリウムも備え、天文に関する学習の機会も提供しています。
- この学習会時には、企画展「戦後70年～私たちのまちは戦場だった～」を開催しており、「多摩地域と全国の戦争遺跡」などのテーマ別の展示を見学し、東大和市が戦場だったことを勉強しました。

### 4 グループワーク

- グループワークでは、5グループ（A～E）にわかれて、午前・午後の施設見学で感じたこと、考えたことを整理し、最後に各グループの成果を模造紙にまとめて発表しました。



# 4 広島派遣

## ● 8月5日(水)　(1日目)

### 広島被爆者体験講話聴講（広島市青少年センター 3階 第1集会所）

**講師：切明（きりあけ）　千枝子（ちえこ）さん**
（広島県原爆被害者団体協議会
被爆を語り継ぐ会）

講師の話を真剣に聴く参加者

中学生たちは、被爆体験者による壮絶な体験談を初めて聴き、それぞれの心に、原爆の悲惨さ、平和の大切さを強く印象づけました。戦後70年が経った今でも、被爆した方の中には後遺症に苦しんでいる方がおり、決して、心や体の傷が癒えることはありません。中学生たちは、切明さんの話を聴き、原爆の実相、戦争の悲惨さを生々しく知ることができ、様々なことを感じ、平和の大切さを学ぶことができました。

被爆者体験講話聴講の後は、５つのグループ（A～E）に分かれて、聴講して感じたこと、考えたことをグループで話し合いました。中学生たちは、2度と戦争をしてはいけない、過ちを繰り返してはいけないという思いを、胸に強く刻みました。

また、翌日のとうろう流しに使用する「色紙」に、それぞれの平和への願いを書きました。中学生たちは、「2度と戦争の起きない国になりますように」、「平和が続きますように」等、それぞれの平和への想いを色紙に込めました。

グループワーク

とうろう流しの色紙を描く参加者

## ● 8月6日(木)　(2日目)

### 平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）

広島市では、70回目の原爆の日を迎え、平和記念公園内で、平和記念式典が開催され、各国の代表や被爆者、原爆死没者の家族、広島市民をはじめ平和を願う多くの人々が参列しました。

中学生たちも平和記念式典に参列し、原爆が投下された午前８時15分には、平和への強い想いを胸に１分間の黙とうを捧げました。被爆者の平均年齢は今年で80.13歳と高齢になります。平和記念式典では、核兵器の廃絶と恒久平和の実現に向け、平和の輪を世界中に広げていくことを誓いました。

なお、平和記念式典には、東大和市長と東村山市長も参列し、中学生たちとともに、恒久平和への祈りを捧げました。

平和記念式典の様子

### 原爆ドーム

原爆は、当時「広島県産業奨励館」であったこの建物から南東約160メートル、高度約600メートルの地点で炸裂しました。原爆ドームは、平成８年（1996年）に、ユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録され、原爆の惨禍を伝える建築物として保存されています。

建物は、被爆前の約３分の１しか残っていません。中学生たちは、復興した広島の街の中で、被爆したままの姿の原爆ドームを見て、説明を聞く中で、戦争の悲惨さを改めて実感しました。

原爆ドームをバックに

原爆ドームの説明を聞く参加者

# 「呉」で平和学習

呉市では、戦時中、様々な兵器・軍艦が製造され、その代表が世界最大にして日本海軍最強の戦艦「大和」です。呉は第二次世界大戦の頃に最も発展しましたが、米軍に攻撃目標とされ、街は焼け野原と化しました。中学生たちは、軍港の街を巡り、戦争や平和について学びました。

**◎呉湾見学**

中学生たちは貸切船に乗り込み、海上自衛隊自衛官OBによる案内で、呉湾を巡りながら、平和について学習しました。

**◎大和ミュージアム**

全長26.3 mもある実物の10分の1サイズの戦艦「大和」がシンボルで、平和の大切さ、高度な科学技術を語り継ぐ博物館です。ボランティアガイドに、10分の1戦艦「大和」を中心に、呉の歴史や科学技術について、大型展示資料室等を案内してもらい、戦争や平和について考えました。

**◎てつのくじら館**

日本で唯一、実物の潜水艦を陸上展示する博物館です。中学生たちは、館内を見学し、潜水艦や海上自衛隊の歴史について学びました。

呉湾見学の様子

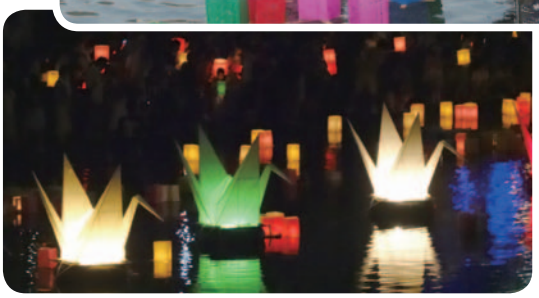
大和ミュージアム

てつのくじら館

## とうろう流し

中学生たちは、当時多くの被爆者が亡くなった、原爆ドームの前を流れる元安川で行われたとうろう流しに参加しました。それぞれの平和への願いを書いた「色紙」で、とうろうを組み立て、ロウソクに火を灯して川へ流しました。自分が書いた平和へのメッセージが川を流れていくのを眺め、平和への想いを強くしました。

また、日が暮れてからは、原爆ドームがライトアップされ、元安川には、火の灯った色とりどりの平和を願うとうろうが流れていました。中学生たちは、その光景を目にし、平和の大切さを改めて実感しました。



とうろう流しの様子

## ● 8月7日(金)　(3日目)

## 広島平和記念資料館・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

広島平和記念資料館では、原爆の威力と恐怖を思い知らされる多数の展示品を見ました。その中には、原爆投下直後の壊滅した広島市街地の縮小模型、熱線で全身の皮膚が焼けただれながら炎の中をさまよう被爆者の等身大人形、被爆死した3人の動員学徒が身に付けていた制服の残骸を組み合わせて1体の人形に仕立てた「三位一体の遺品」や「黒焦げの弁当箱」などがありました。中学生たちが、直接触れることができる展示もあり、真剣に原爆の実相について学びました。

また、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館では、原爆死没者の遺影のほか、被爆者による体験記や証言映像等も見学しました。ここでは、原爆死没者のお名前と遺影（写真）が永久保存され、公開されています。中学生たちは、原爆で多くの方々が犠牲になった事実を目の当たりにし、改めて、原爆による被害の凄まじさを学びました。

広島平和記念資料館

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

# 5 報告会

本事業は、東大和市と東村山市が共同で実施した事業であり、報告会は、各市で実施した平和行事の中で行いました。AからEまでの5グループのうち、AとEの2グループが東大和市で、B、C、Dの3グループが東村山市で発表を行いました。

| 報告会① | |
|---|---|
| 日　時 | 平成27年8月15日(土)　東大和市「平和市民のつどい」 |
| 場　所 | 都立東大和南公園　旧日立航空機株式会社変電所前　平和広場 |
| 発　表 | Aグループ、Eグループ |

## Aグループ

Aグループは、事前学習として、生まれ育った東大和市や東村山市の戦争当時の様子等を学んだこと、広島派遣で、被爆体験者の体験談を聴講したこと、平和記念式典への参列や広島平和記念資料館を見学したこと等について、「見たこと」「感じたこと」「考えたこと」を報告しました。

事前学習である地域の戦争・平和学習では、東村山市で疎開者の受け入れ体制が整っていたこと、東大和市の旧日立航空機株式会社変電所の見学では、建物の壁一面にある弾痕を見て、空襲や爆撃の恐ろしさを知ったこと等を報告しました。広島派遣では、被爆体験者の体験談を聴講し、戦争や原爆の恐ろしさを知り、戦争は2度と繰り返してはならないと感じたこと等を報告しました。

また、事業に参加した感想を以下のとおり1人ずつ発表しました。

- 広島の平和記念式典に参加できたことは、とても心に残りました。

- 70年間平和な日本に、私たちは生まれましたが、この先何十年何百年も平和な国としてあり続けるために、戦争のことを伝えることが大切であり、使命だと思いました。
- 戦争はしてはいけないことだと思い、命は大切だと改めて思いました。
- 私たちの次の世代に伝えられるのは私たちだけだと思います。私たちは何を後世に伝えることができるのか、私たちが後世に伝えなければいけないことはなんなのか、この機会にこのことを考え、私たちができることを実践していければと思っています。戦争も核兵器もない平和な世界を目指して、私は戦争を経験された方からうかがったことを、自ら後世に伝えて行きたいと思います。
- 「当たり前」そんな日々がどんなに幸せであるかと気づいた今、2度と同じ過ちを繰り返さない社会をつくっていきたいです。

以上のような感想が発表されました。

## Eグループ

Eグループは、7月24日に東大和市及び東村山市で地域の戦争・平和学習を行い、8月5日から7日まで広島に行き、戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさを学んだことについて、「①東大和市と東村山市の戦争の被害について」、「②1945年8月6日に広島に投下された原爆について」、「③被爆体験者の話について」の3点を中心に報告しました。

東大和市及び東村山市での平和学習について、自分の住んでいる地域も戦争の被害があったことは知っていたが、事業を通じて、戦争があったことを改めて実感したこと等について報告しました。広島では、原爆投下の事実や原爆被害の実相を学び、原爆は、世界にあってはいけないものだと思ったこと等について報告しました。

中学生たちは、事業の中で、今まで学校等で勉強したことよりも、たくさん考えさせられたということ、戦争で多くの命が奪われたことを知り、戦争に反対し、広島で学んだことを後世に語り継ぎたいと思ったこと等を報告しました。

また、事業に参加した感想を以下のとおり1人ずつ発表しました。

- この事業で、戦争の怖さと平和は決して当たり前ではないこと、もう過去を繰り返してはならないことを学びました。これからの日本、そして世界を担う私たち子どもは、より深く戦争について知り、考え、後世に語り継いでいくことが大切だと思いました。

- 事業に参加して、原爆のことを今までより詳しく知ることができました。1人1人が正しい知識を蓄え、自分の考えを持って、それを実行に移すことが大切だと考えます。
- 被爆体験を語る人が少なくなっている中、この事実を知った私たちが、原爆の恐ろしさを後世に伝えていかなければならないと思います。
- 被爆者の体験談を聴き、戦争がどれだけあってはならないものかを知りました。
- 戦争でたくさんの人が犠牲になったという事実が風化しないように、自分達の代や下の代に伝えていきたいと思いました。
- 戦争で犠牲になった多くの方々のためにも、もっとよく戦争について知る必要があると思います。もう戦争は繰り返してはならないと思いました。

以上のような感想が発表されました。

| 報告会② | |
|---|---|
| 日　時 | 平成27年8月30日(日)　東村山市「平和のつどい」 |
| 場　所 | 東村山市立富士見公民館 |
| 発　表 | Ｂグループ、Ｃグループ、Ｄグループ |

## B グループ

Ｂグループは、地域の戦争と広島の原爆被害について報告しました。

地域の戦争・平和学習では、東村山市の疎開の話が印象に残ったとの報告がありました。東村山市に集団疎開していた子ども達が、富山県に再疎開したことから、東村山市も戦争の下にあったと感じ、また、東大和市の旧日立航空機株式会社変電所に残る弾丸の痕を見て、戦争の痛々しさが伝わってきたと報告しました。

広島での経験として、被爆体験者の「すべてのことは命があってできることだから、命を大切にしてください。戦争は絶対にしてはいけません。平和が何よりも大切です。」という言葉を忘れず、今後の生活に生かしていきたいとの報告がありました。8月6日に行った「とうろう流し」については、「とうろう流しの会場にいた人たちのように、世界中の人が平和を願えば、核兵器や戦争はなくなるだろう」、「今回学んだことを普段の生活に生かし、後世に語り継いでいき、1日も早く世界中が平和になることを願い努力します」という思いを報告しました。その他、広島平和記念資料館や国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を見学したこと等について報告がありました。

また、事業に参加した感想を以下のとおり１人ずつ発表しました。

- この事業で学んだことを生かして、次の世代に平和な世界をつなげていきたいです。
- 原爆の悲劇を繰り返さないためにも、原爆の実態を伝えていきたいです。
- 今回の事業を通じて、平和の大切さを改めて感じることができました。同じ過ちを繰り返さず、今回学んだことを後世に語り継いでいきたいと思っています。
- 私たちにできることは、日常の何気ない幸せをかみ締めて、1日1日を大切に生きること、そして、戦争を体験していない私たちが、体験者の話を聴き、戦争の事実を後世に伝えていくことだと思いました。
- 私たちの過ごしている生活は当たり前ではないことを改めて感じました。
- 被爆体験者の70年前の話を、私も、しっかりと次の世代へ伝えていこうと思います。

以上のような感想が発表されました。

## Cグループ

Cグループは、地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業を通じて、戦争の悲惨さや平和の大切さについて学び、後世に、戦争の恐ろしさと、2度と起こしてはならないことを伝えていきたいと報告しました。

中学生たちは、地域の戦争・平和学習において、東大和市にある戦災建造物である旧日立航空機株式会社変電所について、普段上がることのできない2階部分等も見学し、空襲や爆弾の恐ろしさを実感したと報告しました。また、学童集団疎開で、東大和市と東村山市が児童を受け入れていたことを知り、驚いたことを報告しました。

広島派遣では、被爆体験者の話から、原爆がどれだけ悲惨だったか、家族や友達など、大切な人を失ってしまうとどういう気持ちになるのかを学ぶことができたと報告しました。

その他、原爆ドーム、広島平和記念資料館等を見学して、戦争の悲惨さを感じることができたこと等を報告しました。

また、事業に参加した感想を以下のとおり1人ずつ発表しました。

- 原子爆弾が、地上600メートルの上空で炸裂し、広島にいた多くの人たちが一瞬で亡くなってしまったことを知って、改めて原爆の恐ろしさを知りました。

- 事業に参加して、普段知ることのできない本当の戦争について学ぶことができました。2度と戦争が起こらないように、今回学んだことを後世に伝えていきたいです。
- 今はあまり戦争のことを考えないで生きていますが、今回の事業に参加して、戦争が生んだ原爆がどれほど悲惨で、人間の心と体にどれだけ大きな傷を残すかがわかりました。
- 私たち1人1人が、2度と戦争をしないという思い、戦争を風化させてはいけないという意識をしっかりと持ち、後世に伝えていくことが、私たちの使命だと思います。
- 私たちは、何をすれば戦争が起こらず、人々が悲しむことがなくなるのか、戦争をなくすために、この世界に足りないものは何なのか、詳しく考えていく必要があると思います。まず私たちが行わなければならないことの1つとして、被爆者の方の願いや体験談を、いろいろな人々に伝えていくことだと思います。

以上のような感想が発表されました。

## D グループ

Dグループは、「平和の大切さ」をテーマに、地域の戦争・平和学習と広島派遣について報告しました。

地域の戦争・平和学習では、「東大和市の旧日立航空機株式会社変電所を見て、建物全体に無数の爆弾の痕があることに衝撃を受けました」、「戦時中の生活を知り、学校に行けるありがたさを感じながら通学したい」と報告しました。

広島派遣では、中学生たちは、被爆体験者の方が思い出したくない出来事を思い出しながら話してくれたことに感謝し、体験談を後世に伝えていきたいと思いました。広島平和記念資料館では、原爆は本当に恐ろしいものだと改めて感じたこと等を報告しました。その他、平和記念式典への参加、原爆ドーム等の見学等を通して、「平和の大切さを世界に訴えていきたい」、「原爆の恐ろしさを後世に伝えていくことが大切だ」、「戦争のことを、もっと知らなければならない」と思ったこと等を報告しました。

また、事業に参加した感想を以下のとおり１人ずつ発表しました。

- 平和とは、私たちの身近にあり、気づくことができません。私は、命を大切にし、すべてのものに感謝して生きていきたいと思います。今回の学びを深め、平和であることの大切さを伝えていきたいです。

- 原爆、空襲の被害を受けた建物や、被爆者の体験談等を次の世代に伝えていくことが、もう70年前のような悲劇を2度と繰り返さないための１歩になると思いました。
- 今回の事業で学んだことは、戦争は悲しみしか生まないということです。広島で学んできた私たちだから、感じたり、分かったりしたことがあると思います。戦争の恐ろしさ、平和の大切さを次の世代に伝えていくことが、私たちの使命だと思います。
- 被爆から復興した広島を見て、悲劇を繰り返さないように、平和を守っていこうと思いました。
- 原爆は、とても悲惨で怖いものだとわかりました。戦争は絶対にやらず、平和を続けていきたいと思いました。

以上のような感想が発表されました。

# 6 参加者感想文

## Aグループ

### 平和な未来をつくるために

東村山市立東村山第三中学校　2年
飯沼　未咲子

今年の夏休みは、今までとは違う夏休みになった。戦争で70年前に何が起こったのか、そしてその誤ちを2度とくり返さず平和な未来をつくっていくために私たちにできることは何かを深く考えた。

この事業を通して気付いたことは、あたり前の日常がとても大切だということだ。切明さんもおっしゃっていたように、戦争中は自由も認められなかった。現在のあたり前があたり前じゃなかった時代があると思うととても怖く感じる。だからこそ、このあたり前をずっと先の未来までつなげていかなければならないと強く思う。これが平和を続けていくための第一歩だと考えた。

そして、1人1人がやらなければならないことの1つに知ることが挙げられると思う。平和学習会では私たちの住んでいるすぐそばでも戦争の影響があったことを初めて知った。また、広島に行き、原爆の恐しさを強く実感した。このように、私みたいに戦争のことをよく知らない人は多いと思う。この悲劇を知らない人が誤ちをくり返してしまうのではないかと私は思っている。だからこそ、このことをみんなに知ってほしい。私1人の力で安保法案を取り消すこともできないし、世界中の争い事を止めることもできない。しかし知ることなら世界中の誰だってできると思う。平和な未来をつくっていくために1人1人が過去を学び、未来につなげていく事が必要不可欠だと私は思う。

しかし、戦争がなくなったからといって平和にはならないのではないかと思う。中学校で戦争はないけれど、よくニュースなどでいじめのことを見る。これが本当の平和なのかと考えた。私は本当の平和とは、みんなが笑い合えることだと思う。戦争中やいじめのときは心からは笑い合えないのではないかと思った。だから周りのことを思いやることが大切なのではないかと思っている。

今ある平和は未来までつなげていき、さらにみんなが心から笑い合える世の中をつくっていきたいとこの事業を通して私は強く思った。

### 広島派遣事業を通して

東大和市立第五中学校　2年
木村　洋斗

私は、最初軽い気持ちでこの事業に参加しました。先生や親にそそのかされて参加しました。

最初は学校で参加するのは1人かと思っていたけれど、もう1人参加する人がいると聞いてほっとしました。

事前説明会の時、1人1人自己紹介する時2年生が少なく、1、3年生の方が多いことにびっくりしました。

次に地域の戦争・平和学習会に出席しました。

地域の戦争・平和学習ではまず東村山市のほう

で地域の戦争について学びました。

そこでは戦争前の日本や戦争中の暮らしを知りました。

自分の想像をはるかに越える日本の戦争意識の高さや、今となっては想像できないような再利用など日本がどれだけ戦争に勝ちたかったのかという思いが伝わってきます。

次に東大和市の郷土博物館へ行きました。

郷土博物館では戦争中の日本の状況がよくわかりました。

実物大の250kg爆弾の模型もあり私は

「こんな小さいものがあんなにも大きな被害を生むのか。」

と、思い世界の技術は怖いと思いました。

その後、初めてのグループ作業がありました。

初めは緊張したけれどもう1人の男の人が話かけてくれて緊張がほぐれました。

そして、いよいよ、広島へ行く日が来ました。

広島に行くことになって少しワクワクしていた面もありますし、少し不安な面もありました。

広島についてまず被爆者の切明さんの話を聞きました。

切明さんの話は今まで聞いてきた被爆時の話よりも生々しくそして実感がわきました。

その後、灯ろうを作りました。

私の願いは、争いのない平和な国を目指して、です。

その後、お好み焼きを食べて、ホテルに行き、1日目を終えました。

2日目は、朝早くからホテルを出て平和記念式典に参加しました。

平和記念式典には朝早くにもかかわらず、たくさんの人がいました。

その後、原爆ドームから呉へ行きました。

呉ではまず呉湾を見学してから昼食を取りました。

昼食はあまり食べれないテッパンカレーを食べました。

その後、大和ミュージアムで戦艦大和の10分の1スケールの模型を見てあっとうされました。

てつのくじら館で潜水艦のことを学びました。

その後、灯ろう流しをして、ホテルで夕食を取り2日目は終わりました。

そして、最終日の3日目には、平和記念資料館等に行きました。

1番印象に残っているのは平和記念資料館の被爆直後の様子を人形で表したものです。

これらのことを通して、私は戦争について興味を持ち平和を今までより願うようになりました。

## 広島派遣事業を通して

東村山市立東村山第四中学校　2年
**木村　蓮杏**

私はこの広島派遣事業を通して改めて戦争の恐しさを知る事ができました。

まず始めに地域の戦争について学び、都会から離れている東村山が空襲の被害をうけていたことを知ってとてもおどろきました。東京都とはいえ埼玉に近く、戦争中は特に栄えていた訳では無かったのではと思います。にもかかわらず被害を受けたということは日本が強かったことを現しているのかなと思います。また自分が通っていた化成小学校が化成国民学校として疎開者の受け入れをして、都の23区などから児童を受け入れていた事にとてもおどろきました。自分の身近な所で戦争が起こっていて、日本がどれだけ戦争に力を入れていたのか想像できて戦争の脅威を知ること

ができました。それと同時に地域への理解が深められ、これからも地域戦争について調べ、もっと地域への理解を深めていきたいと思いました。

実際に広島へ行き、原爆の恐しさ、悲惨さが痛い程に伝わってきて戦争をしたことはやはり過ちだったのだと思いました。特に覚えているのは被爆経験者の切明さんのお話です。今まで、原爆については資料で調べたり本を見たりするだけで、実際の恐しさを知る機会が有りませんでした。なので本当の恐しさについてもあまり分かっていませんでした。なので切明さんのお話を聞いて、原爆ってこんなに恐しいものだったんだととてもおどろきました。これまで知らなかったことが多すぎてまだまだ自分が戦争について知らない事だらけだった事が身にしみました。そして、戦争をもっと知ることが日本についての理解を深めることになるのではないのだろうかと考えました。また核兵器の怖さを改めて知ったうえで、核兵器を持っている国がまだまだあると思うと恐しくて仕方ありません。

また、戦艦大和の技術についても学び、この船が現代技術に役立っているのを知ることができました。戦争は、沢山の人を殺し、借金を残したけれど技術も残していったんだと悪いことだけではなかったんだなと思いました。

現在、戦争については学校で学ぶだけになっていると思います。でも、それではいけないのではないでしょうか？ 戦争について学ぶということは、日本について学ぶのと同時に平和について学ぶことだと私は考えます。平和について世界中の人が理解していないと本当の意味の平和な世界はつくることができないとも思います。だから私は、この広島派遣事業を通して学んだ事を、今を生きる人達に、そしてこれから生まれてくる戦争を知らない沢山の子供達に戦争の恐しさを伝えていきたいと思っています。そうすることによって、今、世界で、戦争、紛争をしている国が1つでも減り、1つでも多くの国が平和になって、いずれは世界中のみんなが幸せになることができればと考え、これから少しでも自分のできる事をしていきたいです。

## 学んだこと

東大和市立第四中学校　1年
**中﨑　萌夏**

私は今回の広島派遣事業で学んだことは、主に､2つあります。それは、「平和について」と「平和を学ぶことについて」です。

私は今回広島派遣事業に参加した、きっかけは、今まで学校で少ししかやっていなかった、自分の町などの戦争について、知りたいと思ったからです。

まず、「平和を学ぶこと」についてです。私たちが生きている今のこの世界は、昔ではありえなかったことだと思いました。私は、事前学習で東大和市と東村山市について、学びました。東村山市では、市の施設にいき、B 29のせんとうきのはへんを見たり、実際に使われていた、洋服を見ることができました。そして、その場で、こんなにも、ひどい状況だったのかとつくづく思いました。そして、東大和市にもどり、いつも見ている、旧日立航空機株式会社変電所へいきました。ここでは、とても悲しい、現状を目の当りにしました。コンクリートで、できているはずのかべに穴があいている。今は、しっかりとガラスの窓がついていますが、昔は、爆撃で、全部、われてしまった。このように、昔は、戦争がこの地域で

も、行われていたことに、驚きました。そしてこの今暮らしている平和がどれだけすばらしいものなのかを、あらためて、実感しました。

つぎに「平和について」です。私は、事前学習で学んだことをふまえて、実際に広島に行きました。1日目は、被爆体験者の切明千枝子さんに、たいへん貴重な話をききました。思いだしたくもない話を、時間がずっとすぎるまで、お話をしてくださって、とてもありがたく思いました。そのお話は、とても残酷なもので、耳をふさぎたくなるほどでした。しかしこのようなお話はめったに聞けるものではないのでいっしょうけんめい、お話を、聞きました。

2日目は、ずっと、出てみたいと思っていた、広島平和記念公園の式典にでました。

この式典には、とてもきょうみがあり、小さいころから、テレビで、ずっと見ていました。式典は、とても、驚くことが数多くありました。中でも、子供が文をよみあげていたことです。私より年下の子が、あの大ぜいの人がいるばしょで、あのようなりっぱな宣言をしていることに、驚きました。

そして3日目は、親や、先生からも、ぜひ行きなさいといわれていた、広島平和記念資料館へ行きました。ここでは、とても、リアルな、もけいや、実際の写真などがありました。私は、写真などを見て、絶対にこのようなことを、2度としてはいけないと心から思いました。

今回この事業に参加してみて、私たちは、まだたくさん学ぶことがあふれてると思いました。このような事業がまたあれば、参加したいです。色々と、ありがとうございました。

## 広島派遣事業に参加して

創価中学校　3年
**西岡　憲志朗**

1945年8月6日午前8時15分、一瞬にしてたくさんの人々の命が失なわれてしまいました。この一発の原子爆弾により、当時で35万人ほどいた人口のうち14万人もの人々が、わずか数ヶ月という短い間に亡くなられました。

私は、語り部さんの話を聞きました。語り部さんが原子爆弾で瀕死になっている学校の後輩の看病をしていた時「水をください。」と言ってきた人がいましたが救護兵の方が「水をあげたらショックで死んでしまう。」と言われました。しかし「死んでもいいので水をください。」と言われました。しかし語り部さんは水をあげられませんでした。そして水をあげられないまま後輩は死んでしまいました。語り部さんは水をあげれば良かったと今でも後悔されておりました。

広島平和式典では松井市長が言われた「核兵器が存在する限り、いつ誰が被爆者になるかわかりません」という言葉がとても印象に残りました。イスラム国などによる自爆テロが世界中で行なわれている今核兵器を保持することになってしまうと、世界中の人々がとても大きな恐怖を感じてしまうことになってしまいます。

そして平和記念資料館へ行き、爆発で黒こげになったお弁当、ボロボロになった衣服を見て一瞬にして沢山の人の命をうばった原子爆弾はこの世にあってはならない物だと思いました。

原爆投下から70年、時を止めたままの原爆ドームからは、悲痛な叫びがきこえてくるようでとても胸が苦しくなるようなかんじがしました。

自分はこれから我々に何かできるかを考えるとそれは被爆体験者の思いをうけ入れ身近な人に戦争の悲惨さ、恐ろしさを伝えていくことだと思い

ます。私たちの世代は戦争を経験をしたことがないので自分は戦争に関係ないと他人ごとのように思えてきてしまう人がたくさんいます。今日私は広島に行ってこの世界を知った今それができるような気がします。なぜなら現状を知り、人々の思いを知り、平和を求める１人になれたのですから。もっと戦争について興味をもち、真剣に考えていく必要があると思います。自分は「平和」という言葉の意味を考え、その思いをつないでいく１人となるようにしたいです。また、あたりまえにできること、楽しく過ごしていることがどういうことかを考えて生活していきたいです。

## B グループ

# 世界中の人が平和を願って…

東大和市立第四中学校　1年
**猪股　詩織**

今回、戦争について学び平和の尊さを知りました。特に広島派遣では、たくさんの貴重な体験をしました。

まず、被爆体験談は、当時のことがよく伝わってきました。原爆の怖さがよくわかりました。くわしくあの日のことを話してくださっているとき、切明さんの表情はとてもつらそうでした。聞いている私もこわばった顔をしているなと感じました。今年は戦後70年の特別な年で、テレビで当時を再現したドラマが放送されたり、映画が公開されたりしていますが、それはあの頃を知っている人がいないと作れないものです。だから、どんなに苦しい話でも伝えていかなければ、いつか戦争の怖さを知らない世の中になります。それで、また戦争が勃発して、自分の子孫が苦しめられるのは、本当に絶対にダメです。

本当はわざわざくるしい思いをして伝えなくても、平和な幸せな世界は築けないのか？と思ったりもします。ただ、現在のように、

「憲法9条なんていらない」

なんて思う人がいなくならない限り伝えていかなければと思いました。

そして、2日目平和公園をまわって1番心に残ったのは、佐々木禎子さんについてのおはなしです。これについては、3日目にくわしく学びましたが、被爆されて10年後、現在の私と同い年のときに亡くなったと聞いたときトリハダがたちました。もし、あの日、あんなことがなかったら、きっと私と同じく平和な社会の学校で、運動能力に長けていたというので、陸上部などに入ってそれなりの青春を送って成人し、結婚し、子ができ、孫が生まれ、と、幸せな人生を送っていたのではと想像しました。もしかしたら、有名人になってたりとかいろんな可能性を持つ少女だったはずです。10年間、夢を見せるだけ見せて急に発病して亡くなるだなんて、本当に残こくだと思います。同い年の者として本当に悔やしいです。まだ、死なんて考える歳ではないと思います。でも、たぶん佐々木さんだけではなく、たくさんの被爆者の方々が歳をかさねてから亡くなったのではと思います。

もう2度とこんな風に人々が苦しむ世界にならないように、私にもなにかできないかなと思います。

なぜ人々は争いをするのだろう？自分も相手も苦しむのに…。相手の物が欲しいから？自分は強いと言いたいから？ただただ相手が憎いから？考えれば考えるほどわからなくなり、いやになります。

けれど、戦争だけは絶対にこれから先やらないでほしいと、今回の事業を通して思います。いろんなことを学んで、私は平和な世の中に生まれて本当に幸せだと感じました。この平和が全世界に広がったらなとも思いました。どんなに争いが絶えないとしても、たくさんの人がそう思ってくれるといいなと思いました。

この度は本当に貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございました。

# 命を大切に…

東村山市立東村山第三中学校　2年
小川　紗果

人影の残る石、焼けこげたお弁当、8時15分で止まったままの時計、私の目に映った広島に落ちた原爆の跡はどれも想像を絶するものでした。広島平和記念資料館に行った私は、見ているのがとても辛くなりました。人影の残る石というのは、原爆落下時にその石の上に座っていた人がいたということを物語っています。私はその石を見たとき、涙が出てきました。そこに座っていた人は、まさか死んでしまうだなんて考えていなかっただろうと思ったからです。1番印象に残っているのが、黒くこげたお弁当です。私は、その持ち主が気になり調べてみました。すると、そのお弁当の持ち主は私と同じ年の男の子、滋くんという子でした。8月6日の滋くんのお弁当の中には、滋くんの家で育った野菜が入っていて、喜んで持っていったそうです。しかし、滋くんは食べることを楽しみに作業に行ったまま、お弁当を食べることもなく、滋くんのお母さんに空のお弁当箱が返ってくることもありませんでした。私は日常の何気ない幸せを奪ってしまう戦争が憎いと思いました。

原爆が落ちた日のことを広島青少年センターで、語りべの活動をされている切明千枝子さんにお話を伺いました。その中で1番印象に残っている言葉があります。それは、

「戦争より地獄の方が楽。」

という言葉です。私はとても驚きました。なぜなら、幼い頃から地獄はこの世で1番恐しいところと思っていたからです。その地獄よりも戦争は酷いといわれ、想像もできなくなりました。しかし、地獄よりも酷い戦争は本当にあった事実です。その過去は一生日本が背負っていかなければなりません。

そして、自分達が生まれ育った地域の戦争について勉強をしに郷土博物館へ行った時、私はB-29がつい落し、乗っていた米国の兵士11人が亡くなっていたことを初めて知りました。

「戦争にどちらが悪いということもなく、ただおろかなことである。」

という言葉を聞いて納得しました。

私は、今の日常の何気ない幸せをとても実感しました。温かいところで寝ることができ、今こうしてペンを持って原稿用紙に向かっていることだって、何気ない幸せなんだなと思うと、1日1日をもっと大切に生きなくてはと思いました。戦争は私たちから日常の何気ない幸せや大切な人を奪っていきました。2度とそのような事がおきないように、私たちは今の生活を守っていかなければなりません。これから私は、切明さんがおっしゃっていた

「命を大切に。」

という言葉を忘れず、1日1日を大切に生きるのと同時に、今回の平和学習で学んだことを後世に伝えていきたいです。

今回は、このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

# 広島派遣事業をしてみて

東大和市立第四中学校　２年
**登丸　栞奈**

私が今回の広島派遣事業を体験してみて、１番印象に残った事は、切明千枝子さんによる被爆者体験講話です。

切明さんの話には、想像するのも恐しくなるような部分もたくさんありました。そして私達の住んでいるこの国でこれで本当におこった事なのかとも思いました。切明さんの話を聞いて、原爆というのは、70年たった今も人々の体や心に深い傷をつけるものなんだなという事を感じる事ができました。

次の日は朝早くから平和記念式典に参列しました。式典では、式が始まるまでの間ずっと音楽が流れていました。式が始まると、いろいろな人の話を聞きました。式の最中で、広島市の市長が被爆体験者の平均年齢が80歳を超えたとおっしゃっていました。私はこの事を聞いて、将来は私達が広島での事や戦争の事を語り継いでいかなければならないんだなという事を改めて思いました。

平和記念式典の後に呉湾見学をしました。

呉湾見学では海上自衛隊のＯＢの方が呉湾についての事をいろいろと話をしてくださいました。呉湾にはたくさんのせん水艦や船がありました。また戦艦大和の建造をしていた所も巡りました。また呉湾の船には旧日本軍の旗もありました。

呉湾クルーズの後には、海上自衛隊が食べるカレーを食べました。カレーは、とても美味しかったです。

呉では大和ミュージアムとてつのくじら館もいきました。

大和ミュージアムでは当時世界最大最強の浮沈戦艦とうたわれた大和の模型を見ました。大和は、あまり使用される事がなかったようですが大和の技術は現在でも生かされていると聞きとても驚きました。ミュージアムの中では当時使われていた飛行機やとっこう隊員の遺言などを聞いたりもしました。私はとっこうなんていう隊の人達はどんな気持ちでとっこうに志願したのかなと思ったりとっこうに向かう時恐くなかったりしないのかなとも思いました。

てつのくじら館では海上自衛隊のお仕事の様子などの写真を見たりもしました。

写真では自衛隊の方々が爆弾の処理をしているものもあって、こういう危険な仕事もしているのだなと思いました。てつのくじら館では、海上自衛隊の制服も着てみました。学校の制服よりもぶかぶかしていたけれど自衛隊の方々はいつもこういう制服を着ているんだなという事を思いました。

最終日は広島平和記念資料館と国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行きました。

平和記念資料館では、原爆を受けて亡くなった人の遺品や、被害状況、原爆の模型を見ました。資料館では水を求めて川をめざす親子の様子を表した模型があり、70年前のあの日この事が本当にあったと想像するのが恐しくなりました。

原爆死没者追悼平和祈念館には水をモチーフにしたものがたくさんありました。これは原爆で亡くなった方の霊をなぐさめるものだという事です。祈念館では、原爆を受けて亡くなった方の写真を見たり資料室で原爆に関係する資料を見ました。私ははだしのゲンの作者が書いた本を読みました。はだしのゲンの作者は、実際に原爆を小学生の頃に体験しました。

私はこの話を読んで、もしこの時に作者がこういう事をしていなかったらと思うと恐しくなりました。私は、この祈念館で原爆というものは２度と使ってはいけないし平和というのは大切な事なんだと思いました。

私にとって広島派遣学習とは本当の戦争という

ものや平和について改めて考えさせられた事業だと思います。

私にとって平和というのは、戦争や争い事がない事だと思います。私が、大きくなってもこの事を忘れないようにしていきたいです。

# 全ては尊い命だということ

東村山市立東村山第七中学校　3年
**永木　理子**

1945（昭和20）年、8月6日、午前8時15分。広島に1つの原子爆弾が落とされ、一瞬で広島を襲い、たくさんの人の命を奪いました。とてつもない熱線と共に、爆風、放射線が人々を苦しませました。70年前の日本でこんなことがあったんだと思うと、胸が苦しくなりました。

私は、8月5日から7日まで、東大和市と東村山市合同の“広島派遣事業”という形で広島へ行きました。7月24日に事前学習があり、東村山市にある“ふるさと歴史館”、東大和市にある“旧日立航空機㈱変電所”に行きました。ふるさと歴史館では戦後に70年の歩みを見ました。どの写真も信じられないものでした。東村山市は疎開者を受け入れていたということを知り、びっくりしました。旧日立航空機㈱変電所では悲惨なものを見ました。壁一面に穴が開いていて、見るのが苦しかったです。私たちにこんな悲惨なことが受け入れられるかと少し不安になりました。けれど、私たちが学ばなければ後世に伝えられないと思い、きちんと学ぼうと思いました。

8月5日、新幹線に乗り、4時間かけて広島へ行きました。はじめて見た広島は緑が多くとても70年前に焼け野原だったとは思えませんでした。そして、私たちは青少年センターに行き、実際に被爆をされた“切明千枝子さん”にお話を伺いました。私がお話の中で1番印象に残っているのは“被爆直後”のことです。被爆した切明さんは当時女学生、タバコ工場で働いていましたがその朝は病院に向かっている途中でした。少し休もうと建物の陰に行った時に原爆が落とされました。下敷きになった切明さんは自力でがれきをよけ、歩き出しましたが途中、同級生の助けてという声が聞こえ必死になって助けたそうです。2人でタバコ工場に向かいましたが跡形もなくびっくりしたそうです。女学院の方は焼けていなかったのでそっちに向かい歩き出しました。着くと、ひふが溶けドロドロの後輩や同級生が立っていたそうです。切明さんは違う部屋に移動し、後輩の手当てを始めました。うまく口が動せないので何が言いたいのか分からず、困ったそうです。

「水を下さい」

切明さんは急いで水を用意し、飲ませようとすると

「飲ませちゃだめ！ 水を飲ませたら死んでしまうよ！」

と、言われたそうです。水を飲ませるのをやめた切明さんはその後輩がずっと水を下さいと言っているのに対して、

「だめ！ 飲んだら死ぬのよ！」

と、怒りました。“死んでもいい、だから水を下さい”こんなに、切ない言葉があるでしょうか。そのまま、水も飲めなかった後輩は亡くなってしまったそうです。水をあげたくてもあげられない。こんな残酷なことはないと思います。切明さんは、今生きている私にできることは後輩の分まで生きることだと言っていました。

そして、2日目には灯ろう流しをしました。

“平和へのメッセージ”を書いた灯ろうを川に

流しました。かつて、この川にたくさんの人が逃げ、たくさんの死体があったと思うととても悲しくなりました。私たちの流した灯ろうが被爆者の方々に届いているといいなと思いました。

“佐々木　禎子”さん。2歳で被爆し、中学1年生で亡くなった女の子です。当時被爆した禎子さんは2歳という若さでした。奇跡的に生き残った禎子さんは、その後を生きました。

しかし、小学6年生の時、禎子さんは病気になってしまいます。医者は、

「病気は被爆した事が原因だろう」

と言いました。その後、禎子さんは友達にもらった鶴を見て生きる希望も感じたそうです。それからの毎日はずっと鶴を作っていました。中学1年になった禎子さん。病状はひどいものでした。

そして、禎子さんは短い人生を終えました。原爆で亡くなった方はたくさんいらっしゃいます。その方達の思いを私達は忘れてはなりません。

70年前に起こった悲劇。この事を私達は後世に伝えていきます。この世にいらない命なんてものはありません。奪っていい命なんかありません。忘れないで下さい。

全ては尊い命だということを。

# 平和の大切さ

東大和市立第一中学校　2年
**中野　雄基**

ぼくがこの事業で学んだことはいっぱいあります。

まず1つ目は東大和が戦場だったということです。

まさかぼくたちのふるさとの東大和が戦場だったとは知りませんでした。

ぼくは少しさびしかったです。

いつも平和な東大和が戦場だったとはものすごくショックをうけました。

次にそのあと旧日立航空機株式会社を見にいった。

ぼくははじめて中に入りました。

思ったより暗かったです。

ちょっとこわかったです。

そのあと2かいにあがりました。

2かいにはまだそのままの機械がいっぱいありました。とても変な感じでした。

かべには弾丸の跡があったり大きな穴がいろんなところにあったのでびっくりしました。

そのあとぼくたちは広島に行きました。

新幹線で行きました。

新幹線の中ではトランプをして遊びました。とても楽しかったです。

最初に駅弁を食べました。

とてもおいしかったです。

またトランプをしました。

そのあと被爆者体験の人にお話を聞きました。

とてもゾットしました。

そしてぼくはもう2度と戦争をしたくないと思いました。

そのあとぼくは、ホテルに帰りました。

夜ごはんは、とってもおいしかったです。

そして夜、友達とあそびました。

とっても楽しかったです。

ぼくは夜ぜんぜん眠れなかったのでコーヒーを飲みました。

夜に飲むコーヒーはとてもおいしかったです。

そして朝早くに起きました。

朝ごはんを食べました。とてもおいしかったです。

そしてホテルから歩いて広島平和記念公園に行

きました。
　平和記念式典に参加しました。
　そのあと原爆ドームに行きました。
　それからぼくたちは呉に行き海軍のことを学びました。
　そしてそのあと大和ミュージアムに行きました。
　まずとても印象に残っているのが、10分の1大和の模型です。
　とても大きかったです。
　それからてつのくじら館に行きました。とても楽しかったです。
　特に潜水艦の中に入った時はとてもわくわくしました。
　でも意外に狭かったです。
　そしてぼくたちは灯篭流しをしました。
　とてもキレイでした。
　そしてそのあとホテルにもどり夜ごはんを食べました。
　とってもおいしかったです。
　そして夜、この日も眠れなかったのでつぎは紅茶を飲みました。
　すっごくおいしい紅茶でした。
　そして朝起きて朝食を食べました。
　そしていろいろな資料館に行きました。
　そこではいろいろな資料がありました。
　とてもかなしい気持ちになりました。
　そしてぼくたちは新幹線にのりました。
　そして東京に帰りました。
　帰りの新幹線はとてもおもしろかったです。
　ぼくはこの事業でいろいろなことを学びました。戦争のおそろしさや命のたいせつさなどぼくはこの事業で学んだことをいかしつぎの世代に伝えていきたいです。

## 広島派遣

創価中学校　3年
**西岡　大誓**

　今年の8月の5日から7日まで、自分は、広島派遣事業に参加しました。
　この広島派遣のスケジュールの1日目は、原爆の被爆体験を聞きました。2日目は、広島平和式典に参加して、原爆ドーム、呉湾見学、大和ミュージアム、てつのくじら館、灯篭流しをしました。3日目は、広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行きました。
　この広島派遣で1番心に残ったことは、原爆の被爆体験を切明千枝子さんから聞いたことです。
　切明さんは、2才の時から15年戦争にまきこまれてしまいました。2才の時には、満州事変、上海事変、五・一五事件、小1の時に二・二六事件、小2の時に日中戦争開戦、この時ぐらいに陸軍三省という、兵器省、被服省、学校省が広島に来ました。このころになると日中戦争が始まったので毎日出征兵を見おくりに行っていたそうです。人々は天皇を神だと思って「万歳、万歳」と言っていました。
　切明さんは勤労動員で毎日陸軍三省で週3日ほど学校の授業を使って働いていたそうですが、だんだん戦局が悪化していくと「月月火水木金金」を合言葉に週3日だったのが週5日になって勉強どころではなくなり忙しすぎて関節炎になってしまいました。
　切明さんは関節炎の病院から勤労動員の工場へ帰っている時に原爆が投下されました。
　原爆の爆発の瞬間は100万度を超え爆心地周辺の地表面温度は2,000度～4,000度にも達しました。（太陽の表面の黒点の温度も約4,000度

くらい)

切明さんは、たまたま橋の下の倉庫で休んでいたので死にませんでしたが首に爆風でふきとんだ硝子が無数にささり、倉庫の下じきになっていました。

やっとの思いで外に出ると熱線のせいで家は自然発火し、馬は被爆して像のようになったそうです。

病院から勤労動員の工場に帰るとみんな逃げだしたらしくだれもいないので学校にいくと、まるでゾンビみたいな人がいたそうです。

被爆して水ぶくれがやぶれた皮が血で黒くなりまるで昆布が手から垂れ下がっているみたいだったそうです。

又、多数の人が死んだのでその死臭のせいでたくさんの蝿が来て歩くのもたいへんだったそうです。そしてその蝿が被爆した患者に卵を生み、まだ生存している体にウジがわいたそうです。

このような悲劇を繰り返さないためにも原爆や戦争の悲惨さを伝えていきたいと思います。

## Cグループ



# 平和とは

東村山市立東村山第三中学校　2年
**大前　遥**

今年は戦後70年です。誰もが1度は目にしたり、耳にしたりしたと思います。

今から70年前の1945年（昭和20年）8月6日、広島に原子爆弾が落されました。空には大きなきのこ雲がありました。実際に被爆されていなくても、放射線をあび白血病や病に苦しんでいる人が今でもいます。当時の写真や、資料、展示品などで原爆のおそろしさを目で見て感じて来ました。

原子爆弾が落されたあと、色んなものを吸ってできた雲から、黒い雨が降って来たそうです。被爆された方の体はやけどにおおわれ、水を求める人がたくさんいました。ですが、冷たい水は体の中でショックを起こし亡くなる方がたくさんいたそうです。

今は当り前のように毎日ぐっすりねています。けれど、被爆された方はその生活に最初はなれなかったと言います。警報に起こされ防空壕に隠れるのが当り前だったからです。今は自由に水を飲んだり、生活に困る事はほとんどありません。しかし、国民の自由をうばい、食料や男性、衣服さえも「お国のためだから」と国にとられてしまいました。今では考えられません。でも、その事が本当の戦争なのです。

今、日本は平和ですか？ と聞かれたら、何て答えるでしょうか。私は平和ではないと答えます。なぜかと言うと、いじめや自殺が多いからです。戦争も、いじめも、自殺も全て人の命をうばうという事は一緒だと思います。いじめられている人にとっては1つの戦争だと私は思います。本当の平和とは、いじめや自殺、戦争がなく、国民が意見を言うことができる国になることが本当の平和だと思います。日本に足りない事はいじめ・自殺の防止、国民が意見を言う事が足りていないと思います。

私たちはしっかりと戦争のこと、今後の日本のことを考え、本当の平和を築づくことが私たちの使命だと思います。1人1人が戦争を2度と起さないという気持ちで、1人1人が戦争を風化させないという意識を。命があるから今日も明日も、生きていける。命を大切に。

今回の地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して、とても良い経験をしました。このことは一生私の財産です。学んだ事をこれから発揮したいと思いました。

# 広島派遣学習を通して…

東大和市立第四中学校　1年
**小野　ひな子**

私は、2度と戦争をくり返してはいけないと思いました。

私達は、7月24日地域の戦争平和学習に行きました。その後、8月5日、6日、7日の3日間広島へ行きました。そこで、平和記念式典や海上自衛隊のある呉湾、灯篭流し、広島平和記念資料館

などを見学・体験し、戦争や平和について知ることができました。

私がこの広島派遣事業の中で特に心に残っているのが、語り部の切明千枝子さんのお話しです。切明さんは、広島に落ちた原子爆弾で被爆されていました。1929年生まれで、今年86才。15年戦争をまるまる生きた方でした。小学2年生の時に日中戦争が始まり、そのころ広島は、『軍都広島』と言われていたそうです。小学生だった語り部さんは勉強もできずに、毎日毎日兵隊さんを送っていたそうです。その後、中学生になった語り部さんは、工場に働きに行ったそうです。兵隊さんの衣服を作る工場では、新しい軍服を作るお金が無いので、使い古されたボロボロの軍服に布を付けたり、ぬい直したりしていて、それを使い回していたそうです。語り部さんは心配になって「兵隊さんに着せる服も無いのにこのままで日本は大丈夫なのですか？」と聞いたそうです。すると先生に「日本は神の国だから負けない。だから、そんなこと言うんじゃない」と怒られたそうです。その後、語り部さん達は、今度は、たばこ工場へ行けと言われたそうです。たばこを作る時はずっと立っていなければいけないので語り部さんは足を痛めてしまい朝から病院へ行ったそうです。その道で、つかれたので橋の前で一休みしようと思い、建物の影に入ったとたん、ピカッと光ったそうです。「あっ!!」と思ったしゅんかん地面にたたき付けられ、記憶がとぎれたそうです。起きると倉庫の下じきになっていて、何とか木をどけると、町が変わっていて、しばらくつっ立っていたそうです。家も炎の中なのでたばこ工場に帰ることにしたそうです。たばこ工場はバラバラになっていて、1人の同級生だけが居たそうです。血が出ていたので手当てをしてあげると「あなたも、けがしてる」と言われ、見てみると、首に小さなガラスの破片がささっていたそうです。語り部さんは、全然気が付かなくて、おどろいたと話されていました。そうしているうちに、工務員さんが出てきて、「工場に火がついたから、速くにげろー!!」と言われたので2人で学校ににげたそうです。学校には、けが人が大勢いて語り部さんも手当てをしてあげたそうです。ある子が水が欲しいと言ったので、飲ませようとしたら、衛生兵の人に、飲ませたらショック死すると言われたそうです。その子に伝えると死んでもいいから飲みたいと言われたそうです。結局水を飲めずにその子は亡くなったそうです。その子に水をあげなかったことを今でも後悔しているとつらそうに話されていました。

私は、語り部さんが最後に言った、「命を大事にしなさい」という言葉が今でも頭に残っています。この言葉を実行するためにも、戦争はしてはいけないと思います。誰もが戦争は悪いと分かっているのに口だけで、今も世界では戦争は続いています。世界中の人が本気で止めようと思えば平和がおとずれるはずです。しかし、今、日本では、安保法案が可決されてしまいました。また、同じあやまちを繰り返すかもしれません。これ以上たくさんの命を失わないためにも、戦争が起こらない世の中になることを信じています。今回の広島派遣事業に参加して、このようなことを改めて考えることができました。ここで学んだことを戦争を知らない後世の人達に伝えようと思います。とても貴重な体験ができてよかったです。

# 平和理解への思い

武蔵野女子学院中学校　3年
**関谷　春香**

私は、今回広島派遣事業に参加して戦争について多くのことを学びました。私は、1番最初の説明会の後に自分で戦争というのはどのようなことなのだろうと考えてみました。普通、戦争と言われたら人と人が殺し合うことと連想させられますが私はすぐに広島と出てきました。なぜ私がすぐ広島と出てきたのかというと、小学校2年生の時初めて広島平和記念資料館に入り、身体がボロボロになって皮膚が垂れた人々の光景を見て恐しさのあまり泣いてしまったからだと思います。今回二度目の広島平和記念資料館見学となりましたが、やはり何度見ても恐しい模型だと思いました。広島について被爆者の方の講話を聞き、メモをしていましたが、そのメモを見返すと本当にこんな酷いことが私の住んでいる日本で起きていたと思うと、とても恐ろしくなります。切明千枝子さんという方がお話してくださいましたが、一言一言何かをぶつけるような強い思いが伝わって来ました。切明さんは、15年戦争を丸々生き抜いた方でそれだけでもすごいことなのに、実際に原爆の落とされた広島で死者が多い中生き残ったすごい方だと思います。戦時中は天皇陛下のために自殺をしたり、死ぬことがあたり前の世の中に生まれてきたとおっしゃっていました。その時代は、思っている事考えていることが自由でなく、反対の事を言うだけで罰を受けていたのだと思うと、今の世の中は今考えていること思っていることが自由に言えて良い社会だと思います。

切明さんが話しのまとめとしておっしゃったことの中で、2つ考え深いと思ったことがありました。1つは『それぞれの意見を聞いて、自分の考えを持ち、どれが正しいのかを考えてほしい』とおっしゃったことです。今、憲法19条に『思想及び良心の自由』が許されている時代なので、何をすれば戦争もおこらず人々が悲しむことがなくなるのか、戦争をなくすためにこの世界に足りないものは何なのか、くわしく考えていく必要があると思いました。

2つ目は、『私の無惨に亡くなってしまった後輩や友人のために生きて命を大切にしてほしい』とおっしゃったことです。命を大切にして生きるために私は、今の普通の暮らしに感謝しながら生活することが大切なのだと思います。戦争が終わってから切明さんは空襲警報で夜中起されることがなくなり驚いていました。私達が夜安心して寝て、朝起きて、学校へ行って勉強して、学校が終わると家に帰って、宿題をして、ご飯を食べて、お風呂に入って、寝る、このような普通で何の変哲のない生活を当たり前と思うのではなく、1日に数回でいいから感謝しなければならないと思いました。

戦争について学びに行きましたが、私は少し修学旅行みたいで楽しんでしまいました。私は、小学生の時に受験をし、女子校に通っています。なので私は少し今回の事業に参加するのがこわかったです。同年代の男の子と話すのは小学生以来だからです。ですが、実際話してみると全くこわくなくすぐみんなと仲良くできました。毎日行なっていた生活と少し違ったので、切明さんが普通の生活が変だと思ったことに似ているなと思いました。今回、広島派遣事業に参加して良かったと思いました。そして、私はこれから世界恒久平和の実現のために何ができるか考えていきたいと思います。

戦後70年の節目の年に、大変貴重な派遣事業を企画していただき、参加できる機会を得られたことをとても嬉しく思います。私の一生の宝物になる3日間でした。ありがとうございました。

# 思い出の広島

東大和市立第一中学校　３年
**長井　佳憲**

今回の広島派遣において、私はいろいろなことを学んだ。

１つ目は、命の大切さだ。戦争中は食料も現在と比べものにならないほど貧しいものだったそうだ。このことが原因で飢え死にした人もたくさんいただろう。広島に行き、被爆者の方の話を聞き、その内容に驚いた。同級生や下級生が焼けどを負い、次々に学校に助けを求めてやってきたり、黒い雨が降ったり、今でも病いと戦っているという話を聞いた。おもいだすのもつらいだろうと思いながらも被爆者の話しを聞いていた。自分と同い年くらいの人々がこのような体験をしたのだと思うと気の毒に思う。そして、被爆者の方々は戦争によって、たくさんの友人や家族を亡くしたことだろう。自分がこのような体験をしていたら、多分耐えられないと思う。なのでこういうことがあったからこそ、命は粗末に扱わず、尊い命をもっと大切に扱っていければいいと思う。

２つ目は、後世へ繋いでいく遺産だ。私が住む東大和市には、遺産というべき場所がある。１つは、東大和南公園にある旧日立航空機株式会社変電所である。これは、東大和市の文化財になっている。広島派遣の事前学習でそこを訪れたときに、表面が爆弾でデコボコになっていた。建物の中に入ると、内側にもやはり穴があった。すごく激しい戦いだったことが建物を見て思った。２つ目は、貯水地である。貯水池の建物にも、爆弾があたった傷がある。このように戦争の激しさを伝えてくれる場所は都内にたくさんあるが、都合上、建物を撤去しなければならなくなった場所もある。東大和にも数ヵ所あったのだが、都合により、なくなってしまったものもある。このように、どんどん都合によってなくなってしまう遺産を守っていくために、人々が協力していかなくてはいけないと思う。

そして、最後に平和である。広島の平和記念資料館に行ったとき、たくさんの原爆による被害を見た。戦争は平和を生まない。なので、もう戦争はしない平和な国であってほしいと願う。

# 広島派遣事業を通して

東村山市立東村山第二中学校　２年
**依田　和馬**

戦争はなぜおきるのだろう。

私は、戦争はよくないことだと思います。その事は広島派遣を通して良く分かりました。

事前学習の時では、いつも自分達が暮らしているこの東村山市でも戦争があったということが分かりました。僕は今まで、東村山市は東京都の中でもいなかの方なので、戦争にはあまり関係ないと思っていました。しかし、事前学習のおかげで、自分が東村山について思っている事がガラリと変わりました。

次に、広島県を訪れて、最初に切明千枝子さんの話をうかがいました。切明千枝子さんの話はとても戦争のいたいたしさが伝わってくる内容でした。自分がかわいがっていた、妹達は、原爆の放

射能で黒こげになってしまい、さらにその妹達は油で白くなってしまいました。その時妹たちはこのように切明千枝子さんに言ったそうです。

「水を下さい。のどがからからなんです。水を下さい。」

と。切明千枝子さんは、すぐにコップに水を入れて、妹達に水をあげようとしました。しかし、先生に、

「水をあげてしまったら、体の中の熱で水が蒸発して、体が熱くなり、死んでしまう。」

と言われたそうです。だから切明さんは妹達に水をあげませんでした。しかし、その妹達は何日かたってすぐに死んでしまいました。その時切明さんは、最後にあの子達の願いを叶えてあげたかった。どうせ死んでしまうのだったら、彼女達の願いを叶えてやりたかったと今も悔み続けているそうです。

次に広島に行って心に残った事は、広島平和記念資料館です。切明千枝子さんが言ったとおりに、妹達のような少女は黒こげで、わかめのように皮膚がたれさがっていたりしていました。その他にも、原爆の高い熱と放射能によって体はとかされ、その影だけが残った石、爆風によって、ガラスがわれ、ガラスの破片がつきささった壁、黒こげになってしまったお弁当などがありました。どれにも悲しさや原爆の恐ろしさなどが伝わってきました。

なぜこのような悲しい被害などを生むのに戦争を私達人間はやってしまったのだろう。戦争をしても人々の心に深い傷を作るだけなのになぜ、金や土地などのために罪のない人どうしが殺し合わなければならないのだろう。考えるだけでとても悲しくなります。

最初になぜ戦争はおこるのだろうとありました。それは、人間が自分の欲望のためだけに人を動かし、人を殺す。自分勝手な気持ちのせいでそのようになる。そんな事は決して許されない事である。まだ自分は戦争のことをよく知らないので社会の授業などで、戦争の知識を増やし、しっかりとした自分の意見を持ちたいと思う。だから、これからは、社会の授業を自分が経験した事を頭のすみにおきながら受けていきたいと思います。

このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

## D グループ

# 広島派遣事業に参加して

東村山市立東村山第七中学校　2年
**石井　和慶**

僕が参加した広島派遣事業は、楽しかった事もありましたが、辛いこともありました。

東村山、東大和の地域めぐりでは東村山ふるさと歴史館に行きました。そして昔の写真を見ました。その一部、昔の地図を見て初めて分かったことがありました。それは、今で言う中央公園は昔、兵隊の訓練場であったことです。ここで訓練し戦地で戦ったと思うととても心苦しく悲しく思います。

東大和での旧日立航空機株式会社変電所ではその建物の壁面に無数の穴があいていました。同じく旧日立航空機株式会社の給水塔も変電所と同じくらい穴があったようですが、平成13年に取り壊されました。僕がこの変電所と給水塔の穴は空襲による弾痕と知ったときとても空襲はこわいと感じました。

そして僕は広島へ行きました。広島では、被爆者の体験談を聞いたり、平和記念式典にも参加しました。

平和記念式典では、アメリカや韓国、ロシアと言った約100ヶ国もの国が参列をしていて、僕はこのばにいた外国人は平和への思いが強いのではと思いました。しかし現実ではまだこの地球上では数多くの核兵器が存在しています。だから世界の1人1人が共に生きて行くためには核兵器をなくしていくことを目指さないといけないと思いました。

僕は日本のこれから生まれてくる人々やいろいろな外国の人々に平和な心を持ってもらえれば世界は核兵器のない平和な世界ができるのではないのかなと思いました。

被爆者体験談では切明千枝子さんの話を聞いて戦争の体験がこわく大変だったと思いました。

70年前のこの頃、小学校が国民学校でした。その頃の人々は天皇のために戦争で死ぬことがかっこいいと聞きました。僕はそれを聞いて自分の命は天皇のためにあると言う人が多くいたのでは？ と思い昔の人はとても無残なこと考えるなと思いました。

そんな日本、広島で悲劇以上にとても無残なことがおこりました。1945年8月6日午前8時15分、1つの原子爆弾が落とされ、たくさんの建物や自然、人々が消えて、建物はがれきの山となってしまいました。そのときの風景はまさに地ごくだったと想像しました。

僕はなぜこの広島に悲劇をもたらす爆弾、原子爆弾を落としたのか、そもそもどうして原子爆弾を作ってしまったのか、とてもなぞに思います。しかしその爆弾を作ったのは同じ人間です。それを思えば僕は人間ってとてもおそろしいと思いました。

爆弾で亡くなってしまった人もいる一方、切明さんのように生きていらっしゃった人もいました。切明さんは建物の下じきになっていて生き残りました。

最後切明さんがおっしゃったことがありました。

「命を大事に、生きててよかったと思うように生きてください。戦争で死なないで。そもそも戦争をしないで。」

過去は変わらなくても未来は変わります。昔があったから今の平和があり僕たちの今の世代、未来の世代がこの平和を続けて原爆でお亡くなりになった人の分も平和に楽しい人生を歩んでゆく。これが私たちの使命だと僕は思います。

# 平和に生きる喜びと感謝

東村山市立東村山第五中学校　2年
井上　和姫

日本は戦後70年の歳月を、平和と国際貢献で世界に自慢できる国として繁栄してきた。私たちも、国とともに豊かで何不自由のない暮らしと幸せを生きている。この幸せな日本に、かつて戦争や原爆による悲惨な悲しい出来事があったことなど想像もできない。

私は「東大和市・東村山市地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」に参加し、戦争や原爆を許さない思いと、平和に生きる暮らしへ感謝の思いを強く感じました。

1945年8月6日、広島に原爆がアメリカ軍によって投下された。さらに9日には長崎に。この非人間的な原子爆弾により広島において約14万人、長崎では約7万人が一瞬にして命を奪われた。助かった人々も放射能や熱風により、未だに被爆の後遺症に苦しんでいるという。それだけの悲惨なできごとも体験したことがない私には、漠然としか想像できなかった。しかし、今回広島をはじめて訪問し、様々なプログラムに参加し学習することで、70年前の過去の事実を知り、被爆者の方の講話を聞き、戦争や原爆について決して許されない出来事であることを考えさせられた。

どれほど熱かったでしょう？
どれほど苦しかったでしょう？
どれほど痛かったでしょう？
わたしは、涙が止まらないほどの悲しみを感じます。

日本各地でも、私たちが暮らす東京でも、東村山でも空襲があり多くの命が失われました。戦争は、兵士だけでなく一般の多くの命も失われてしまうのです。

人間の人生が奪われ、家族が奪われ
兄弟が奪われ、友人を奪われます。

戦争がもたらす悲惨さを私たちは過去の歴史から学んでいきます。今、私は未来に向かって希望をいただいて成長しています。

私たちの人生を阻害するものは何もありません。しかし、ひとたび戦争が起これば、私の人生も命も希望も一瞬にして消えてなくなってしまう。

過去に起きた、戦争と原爆の事実。

戦争と原爆の惨状を学び、2度と同じ過ちを犯してはいけない決意。

今、平和に暮らすことの大切さを学び感じ、平和に生きる喜びと感謝を実感した広島の訪問だった。

# 広島派遣学習

東大和市立第五中学校　2年
菊池　陽生

ぼくは8月の5、6、7日、東大和市と東村山市の代表の1人として広島に行ってきました。

「戦争は恐しいこと」とみんなは言いますが、今の中学生は本や教科書でしか知ることができません。そのため今回の派遣学習は、戦争の時に実際にあった建物や道具などを見る事ができて良い経験になったと思います。そして1番心に残ったのは、かたりべさんの話です。軍事都市の広島で原子爆弾が投下され街も友達も何もかも失ったけれど国のために一生懸命生きぬいた話を聞いて、

戦争で友達や家族を失いたくない、戦争で亡くなった方の命を無駄にしたくないと感じました。

最終日、広島平和記念資料館を訪ずれた時、たくさんの外国人がいました。外国人がカメラを向けている先には被爆者をまねてつくられた人形が展示されていました。皮ふがはがれているその人形を見てぼくは、人形だけでも怖いのに、本当に皮ふのはがれた人がいたことを考えると、とても恐ろしいことだと思いました。

広島派遣学習は、戦争を知るだけではなく、今が、どれだけ幸せかを感じることができる良い機会でした。

他に、東村山市の友達とも仲良くできたことがうれしいです。学習で初めて会って、そこから一緒に平和について勉強したグループの人達とは、最終日には、みんな同じ学校の人ぐらいに仲良くできて楽しかったです。

この広島派遣学習は、普段当たり前のことが当たり前ではないことに気づかされる、すばらしい派遣学習なので、これからも続けていってほしいと思いました。

## 無意味な殺し合い

東大和市立第四中学校　１年
**佐々木　まりん**

「本物の戦争ってこんなにも無慈悲で残酷だったんだ…」

この思いは「戦争」や「原爆」を学ぶ広島派遣から帰ってきたとき、１番初めに感じたことです。

私は元々、小学校の時にほんの少し習った戦争について少し興味を抱いていました。

「なんで日本は他の国と戦争をしたのだろう」とか、「戦争って友達とか全員死んじゃうのかな…？」だとかいう疑問が知りたくて興味を持ったんだと思います。

小学校の教科書ではただ日本が他国にケンカをしかけて戦争をしていたなどおおざっぱなことしか書いてなかったので小学校のときの自分は疑問がありまくっていたと思います。

そして、中学校に上がり、夏休みに「広島派遣」という戦争や原爆について学べる事業の話を担任の先生から聞いて私は今まで知りたかった戦争関連の疑問がこの「広島派遣」に参加すれば分かるかも！と思い、この事業に参加しました。

けれども、行って分かったことは「戦争は、自分たちが想像しているほど生ぬるい争いではない」ということを酷く身に染みました。まず、地域の戦争・平和学習では、今、自分達が平和になにごともなく住ごしている町が昔は大量に人が殺されていて、平和なんてどこにもなかったということに驚かされました。次に広島派遣事業では、１番初めに聞いた切明さんの被爆体験談が自分の想像していた被爆体験談よりも内容が壮絶で聞いてて胸が締めつけられるような思いをしました。

広島派遣で特に１番印象的だったのは、とうろう流しです。被爆者へのとうろうを流したときに「なんで日本はこの様な悲劇を生みだしてしまったんだろう…」など思うことがたくさんあり、もう戦争を起こしたくない！と１番強く感じたからです。

私はこの「広島派遣事業」を通して、「戦争」という名の殺し合いの無意味さと、今、この前までは感じることの無かった「日常という名の平和」を強く感じることができました。戦争ほど無意味な殺し合いをまた、同じような悲劇を生まない為にも戦争を知らない次の世代へ伝えたい！と思えた広島派遣事業でした。

# 広島にいって学んだこと

東村山市立東村山第三中学校　２年
**菅原　万由**

この事業に参加したことで、夏休み前とは違う自分に出会えた気がします。最初は、友達に誘われ何となく参加しようかな、と軽いノリで、観光気分だったと思います。しかし学んでいくうち、自分の中で何(なに)かが変わっていくのを感じました。

広島の１日目は実際に原爆を体験した方のお話をききました。心の内側から、これまでにない感情がわき起こりました。

今回話してくださった切明千枝子さんの口から語られたことが、実際に起こったことであるという事実を受け入れるのに時間がかかりました。目の前で見て、体験した人にしか言い表すことのできない光景。その光景が語りを通じて私の頭にはっきり浮かびました。切明さんが語ってくださった体験談は、口にも出したくないくらい、辛いお話だったと思います。平和な暮らしを送っている私には、信じられませんでした。

原爆を実際に受けた方の言葉の重みは、どんな言葉より重く、どれだけ私の胸に深く突き刺さったことでしょう。人間はなぜ互いに争い傷つけ合うのか、こんなことになると何故分からなかったのか。人類一人一人が考えていかなければならない重要なテーマだと思います。

体験談を聞いて思ったのは、戦争は悲しみしか生まないということです。戦後70年たち、戦争を知らない世代が増える一方、また同じ過ちをくり返さないために、国民一人一人が今一度平和をみつめて、何ができるのかを考え、国民を戦場へ送り出そうとしている政府に立ち向かっていけるといいです。戦争を体験し、亡くなられた方や、今でも苦しんでいる方の思いを無駄にすることなく、今私たちにできることを精一杯やっていきたいと思いました。

## Eグループ

# 広島派遣事業で学んだこと

東大和市立第四中学校　2年
**片岡　日菜**

私は「戦争」が昔の出来事だ、自分達に関係ないものだと思っていました。しかし、この派遣事業に参加し戦争について、3つのことを学びました。そして考え方は変わりました。

1つ目は、私達が住んでいる東大和市・東村山市も、70年前は戦場だったということです。私達は、広島へ行く前に事前学習で東大和市と東村山市の戦争の被害について学びました。初めに東村山市のふるさと歴史館へ行きました。そこで、東村山市は疎開地だったこと、9回も空襲をうけ死亡者がでたこと、敵軍のB29が墜落したことなどを知りました。また昔の東村山市は、建物が今と比べて少なかったので驚きました。次に東大和市の南公園にある変電所跡を見学しました。通常なら見学できない2階まで見せてもらいました。2階は1階より当時のまま保存されていました。変電所跡の壁や2階の機械には、爆弾が当たった跡がたくさんありました。さらに、1階の壁には穴も空いており、兵器の威力が伝わってきました。最後に東大和市の郷土博物館へ行きました。そして東大和市も東村山市と同じように疎開地だったこと、軍需工場があったこともあり東村山市以上の空襲をうけていたことを知りました。今私達が平和に暮らすこの町も、かつては戦場だったということを、改めて学ぶことができました。

2つ目は核兵器の恐ろしさについてです。8月5日から7日まで広島へ行きました。1日目には、被爆体験者で語り部の切明千枝子さんからお話を聞き、原爆の恐ろしさを知りました。特に、火傷を負った少女が「水が欲しい。」と言ったのに飲んだら死んでしまうため、あげることができず、結局少女は死んでしまったという話が1番印象に残りました。2日目は、平和記念式典に参加しました。私は子供代表の言葉が特に心に残りました。そして最終日には平和記念資料館へ行きました。そこでは原爆の被害や被爆者の遺品、後遺症の説明などが展示してあり、原爆の恐ろしさを目の当たりにしました。もう、核兵器を使ってはならないことを学びました。

3つ目に学んだことは、平和はけっして当たり前ではないことです。私は戦争の怖さを実感することができず、平和は当たり前のように思い過ごしてきました。しかし、平和は当たり前ではないことで、いつ壊れるかわからない繊細なものだということを学びました。

だからこそ次の日本、そして世界を担う私達は戦争について深く知るべきだと思います。深く知り、考え、未来へ伝えていくことが私達の『使命』だと考えます。私は、これからも平和な世の中が続くように、この派遣事業で学んだ平和の大切さ、戦争の恐ろしさをたくさんの人に伝えていきたいです。

# 広島に行って

東村山市立東村山第六中学校　2年
下川　隼輝

僕は、戦後70年という節目の年に広島に行けてすごく良かったと思いました。

戦争から70年もたった今、実際に戦争を体験した人の平均年齢は80才を超えているといいます。そんな戦争を体験してきた切明さんの貴重な話を聞くことができました。切明さんの話は皮ふがはがれて、爪でひっかかり垂れ下がったり、爆発した場所の真下付近にいた人は、とけてあとかたも無いぐらいになっていたということを話してくれました。切明さんの話の中でも「水が飲みたくても飲んだら死んでしまうのにそれでも水がほしい」という言葉が印象に残りました。切明さんは、実際に被爆されている方だったので、話がよく伝わり、具体的に話してくれました。原爆を中心とした話なので原爆の被害についてはすごく分かりましたが、悲しい気持ちになりました。

1日目の夜は、お好み焼きを食べました。広島は東京と少し違うところがあって、そうしたことも楽しめました。もちろんすごくおいしかったです。

2日目は8月6日でした。70年前に落とされた原爆等で亡くなった方の平和記念式典に出席しました。式典は暑い中、45分間行われました。式典では安倍首相等の多くの方が来ました。今年は例年よりも少し多かったらしくそれなりに人がつめあっていました。今の政治では、また戦争を行える国にしてしまうことを考えるのですら、どうかしていると思いました。この国を守るために自分自身が考え、行動に移したいと思いました。

式典を終えて、原爆ドームを見ながら、ガイドさんから原爆ドームについて説明してもらいました。説明を聞いて、また原爆の恐しさを感じることができました。

11時頃には、呉湾に行き、呉湾見学をしました。元海上自衛隊自衛官による、案内と説明を聞きました。実際に使われていた船や潜水艦などがありました。

昼食は、呉湾の近くにある店で、鉄板カレーを食べました。クジラの肉やスタミナ満点のカレーはおいしかったです。

昼食を食べ終わると大和ミュージアム、てつのくじら館に行って、日本の技術や、平和についても学べました。

平和記念公園に戻り、近くの川に行くと、そこで流灯式がはじまり、自分でつくった、灯籠を流しました。参加者の強い気持ちがこもった灯籠を沢山見ました。

3日目は、平和記念公園内にある、広島平和記念資料館と国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行って写真や図、説明などを見ながら、原爆による被害や遺品など戦争、特に原爆についての事を深く学ぶことができました。館内には、少しショッキングな写真もあり、怖かったです。

そして無事に東京へ帰りました。

今年で人生初めて広島に行って、色々な事を学びました。広島で学んだ事や近くにもある、ふるさと歴史館などで得た物も後世に語り継ぎ、平和について考えて行き、この国に必要なことを考えて、日々の生活にも活かしていきたいと思います。

# 広島に行って

東大和市立第四中学校　１年
**田島　知佳**

私は広島に行き戦争や、核兵器などの考えが変わりました。

広島に行く前は、8月5日に広島に原子爆弾が落とされて、8月9日に長崎に原子爆弾が落とされ、多くの人が亡くなってしまったということしか知りませんでした。そして、毎年どちらの県でも平和式典が行なわれているな、という位しか意識していませんでした。

まず地域の戦争について学びました。私は東大和市、東村山市が戦場だったことを知っていましたが、そんなに大きな被害にはあっていないだろうと思いました。しかし、見学をしていくうちに、東大和市、東村山市のどちらの市も、大きな爆弾が落とされて、多くの罪のない人々が亡くなってしまった事を知って戦争は恐ろしいものだと感じました。そして、私たちの住んでいる町もかつては戦場だったと改めて思いました。

そして、広島に行き、最初に語り部の切明さんからお話を伺いました。切明さんの話の内容は悲惨で恐ろしいものだったので私は怖くなりました。そして、切明さんはこんな悲惨な過去の記憶を思い出すのは苦しいだろうと私は思いましたがそれでも話してくれていてもうこんな原子爆弾はあってはならないということを私たちに伝えてくれました。

2日目の平和記念式典では、大勢の人々が参列していてその中には外国人の方もいて、世界中の人々が核兵器がなくなることを祈っているのだなと感じました。平和記念式典では、多くの人々の平和への思いが聞けてよかったです。

次に呉湾に行きました。船に乗った後、大和ミュージアムの見学をしました。ここでは当時、最高峰の技術でつくられていた戦艦大和の事、そして戦争の事などを学べました。体験コーナーなどもあって楽しく学べました。

次にてつのくじら館に行きました。ここでは、実際に潜水艦に乗ることが出来ました。潜水艦の中は今でも実際に生活しているみたいな感じで臨場感がありました。

そして最後に、灯ろう流しをしました。大勢の人々が訪れていてこの日は広島の方にとって大切な日なんだな、と改めて感じました。

3日目は最初に国立広島原爆死没者追悼平和祈念館に行きました。ここでは、死没者の名ぼが全部あり、こんなに多くの人々が亡くなったのかと、とても驚きました。ここには、図書室もありいろいろな事が学べました。

最後に広島平和記念資料館に行きました。ここでは、実際の資料や、説明を見て、今までよりも詳しく原子爆弾の事を知れました。

私は広島に行って改めて戦争や核兵器などは絶対にダメだと、感じました。そして語り部の切明さんの話を聞き原子爆弾の恐ろしさを知れました。最後に、1人1人が正しい知識を蓄え、自分の考えを持って、それを実行に移す事が大事だと考えます。

# 広島派遣

東村山市立東村山第三中学校　3年
十時　美優

私は広島に行き学んだことが2つあります。

1つ目は原爆と戦争の被害についてです。広島に行く前に東村山のふるさと歴史館や東大和市の変電所を見学しました。このあたりの地域は戦争に関係ないと思っていました。ですが資料館を見る限り多くの被害をうけていた事に驚きました。

広島に行ってからはまず被爆者の方からお話しを聞きました。戦争は、兵士として戦場に行き命を落とした人もいれば原爆で命を落とされた人、後遺症で苦しみながら亡なっていった人もいます。そんなつらい話をわざわざ思い出し泣きながら私たちに話してくださいました。今、日本は戦争をする国になりかけています。二度と同じような事をくり返さないためにももっと戦争について知る必要があると思いました。

平和記念公園内にある資料館を見ました。中には原爆が落とされた直後の写真や焼けた物や服、後遺症についての説明などがありました。見ているだけで今まで学んだ事を思い出したり当時の光景を想像したりして怖かったです。

戦争は恐ろしくて意味のないものだとこの事業を通して思いました。そして知らない人たちにはもっとよく知ってもらいたいです。

2つ目は、友だちとのコミュニケーションの大切さなどを学びました。今回の広島派遣は、初めて会った子ばかりで、3年女子はなんと3人と不安しかありませんでした。ですが広島派遣初日には全員と仲良くなり楽しかったです。そして、戦争について学んでいる途中怖い事がたくさんありました。そんな時に支えてくれたのは友達ですし、この事業が何倍も楽しくなったのも友達のおかげです。

私はこの事業で戦争についての知識と友達の大切さの主に2つを学びました。この2つをこれからに生かしていきたいと思っています。

# 広島の旅

東村山市立東村山第五中学校　3年
平山　雅章

「旅行も今年は行けないし、行ってみたら。」

母親のただ旅行に行けるという理由でのその言葉に、僕はほんの少しの興味がわいた。最初は広島への興味であって、決して平和について学ぼうとだけ思って応募したわけではありませんでした。

7月24日。広島へ行く友と出会いができると思い、緊張しながらも、うきうきしながら市役所へ向かいました。

緊張しながら自分から話せず、棒のように立っていると、男子たちから話しかけてくれました。すぐに打ちとけることができて、その時に緊張も解けたと思います。

この日は東村山市と東大和市の色々な場所を巡ったことで、この場所で起こった事実を知ることができました。この日のおかげで、色々な人と出会い、友達になれたと思います。

8月5日、東村山駅に集合し皆と再会しまし

た。電車を乗りつぎ、新幹線で4時間、やっと広島についた。着いて思ったのは、思ったより都会であり、緑の多い街だということ。

初日のビッグイベントである切明さんのお話は胸が痛みました。僕らと同じ年代の頃に無理矢理働かされ、偶然に生き残った原爆投下後も、本当にたくさんのことで困ったことを聞きました。今もなお、原爆投下による放射線により、がんをわずらってしまっている。もう原爆投下から70年、されどその時被害を受けた人にとっては、長く苦しい時間だったと思います。また、本当はこのような話をしたいわけではなく、話をしている最中も、どこか悲しい表情を浮かべていました。

今年、被爆体験者の平均寿命が81歳になったそうです。戦争の悲しみを伝えることができる人達が、どんどん少なくなっているのです。だからこそ僕たちは、この体験の内容、考えたことを、後世に伝えなければならないと思いました。

2日目、僕達は平和記念式典に出席しました。首相や閣僚の人たちが間近に来たときは、とても緊張しました。

その後は呉市に移動して、呉湾見学、大和ミュージアムを見学しました。戦時中に戦った戦艦を近くで見れて楽しかったし、呉湾はとても楽しかったです。

3日目、平和記念公園や資料館を見学しました。放射能によって亡くなられた佐々木禎子さんの原爆の子の像には、たくさんの折り鶴が集められていて、世界中が、原爆投下に思いをよせていることに、うれしくなりました。

僕はこの体験を通して、昔のことを知ることは、生き方を見つけることだと知りました。昔、戦争という過ちのせいで亡くなった人たちが、どのような思いで生活していたかを、少しでも知れて良かったです。この体験で学んだことを、後世に伝えなければいけないとも、思いました。

## 事業に出て

東大和市立第三中学校　1年
**藤井　馨一朗**

まず、私は今回はじめて平和について深く触れたと思います。事前学習会に行き、それだけでも家族に対する思いや戦争に行きたくないと言う思いが胸が苦しいくらいに伝わってきました。母さんへの思いがこめられた手紙や子どもや妻に送った手紙などその日その時、いったい何を思っていたかがわかるような気がしました。この事前学習会でもいろいろなことがわかりました。

そして1日目、1日目のメインイベントは被爆者の体験談です。80代の、実際に原爆を受けた人の話を聞きました。私はこの話を聞いてこれからは絶対に戦争などと言うものを、絶対に起こしてはいけないと思い、そしてこの、どの書物にも乗ってないこの素晴らしき論文を忘れてはいけないと思い、そして小さい子たちなどにどんどん受け継いでいく物だと思いました。

2日目はまず広島平和記念公園に行って、安倍総理の演説を聞くことができて良かったと思いました。

その次には、大和ミュージアムに行きました。私の中では個人的に1番好きな所です。特に10分の1スケールの戦艦大和があり他にもとてもリアリティにできているプラモデルなどいろいろな船を見てきました。他にもミュージアムショップに行っていろいろ買ったりして大和ミュージアムを出ました。

次は灯ろう流しです。被爆者の体験談の時に書いたのがあったのでそれを

「はーいどうぞー。」
と言われてそして流しました。と中でえんそうなどを聞きながらそのままバスにのってホテルにもどりました。そのあとに夕食をたべてからとうろうを見にいって川で見たらとてもきれいでしたが、自分のは見あたらずさがしているとひかりのきえた灯ろうに自分のかいた絵があったのですこしさびしかったです。

3日目はまず広島平和記念資料館に行きました。中ではいろいろな写真やもけいがおいてありました。そのあとに、新幹線で帰りました。

個人的にも70年目の平和式典に出れてとても良かったと思います。

今回の広島派遣事業を受けていろんなことが進化、成長したと思います。勉強はもちろん楽しかったり、怖かったり、いろいろありましたが、こんかいの事業を受けられて良かったと思いました。そして最後に、広島のいろいろな所を見てお好みやきがおいしかったり、おみやげも買えて、思い出の多い旅になりました。

# 7 参加者アンケート

## 1 アンケートの目的

本事業では、事業を通じて、「平和」や「広島」についてのイメージ等について、参加者それぞれの考えがどのように変化するかを確認すること等を目的として、参加者27人に対して、事業の実施前と実施後にアンケート調査を行いました。

## 2 アンケートの結果

回答者数は、複数回答した方がいるため、合計が参加者数と一致していない場合があります。

【実施前】本事業に参加を決めた理由　（単位：人）

| 平和学習をしたい | 広島に行きたい | 親に勧められた | 友人に誘われた | その他（フリー） |
|---|---|---|---|---|
| 16 | 1 | 5 | 3 | • 先生に勧められた。<br>• 戦争の番組を見て関心を持った。 |

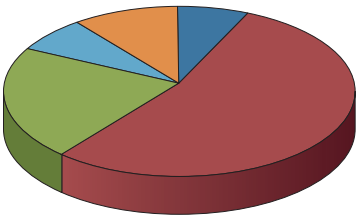
【実施前】広島派遣事業で最も興味のある内容　（単位：人）

| 広島被爆者体験講話聴講 | 広島平和記念公園の式典 | 原爆ドーム見学 | 呉市での平和学習 | とうろう流し | 広島平和資料館 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 15 | 6 | 0 | 2 | 3 |

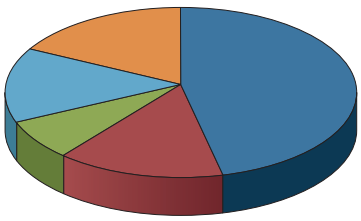
【実施後】広島派遣事業で最も印象に残った内容　（単位：人）

| 広島被爆者体験講話聴講 | 広島平和記念公園の式典 | 原爆ドーム見学 | 呉市での平和学習 | とうろう流し | 広島平和資料館 |
|---|---|---|---|---|---|
| 13 | 4 | 2 | 0 | 4 | 5 |

≪実施前≫



≪実施後≫



■広島被爆者体験講話聴講　■広島平和記念公園の式典　■原爆ドーム見学
■呉市での平和学習　■とうろう流し　■広島平和資料館

実施前は、参加者の興味は、普段、テレビ等マスメディアで取り上げられることが多い「式典」に集中していましたが、実施後は、実際に被爆した方の体験を聴くことができた「講話」が印象的だったと回答した参加者が多くいました。

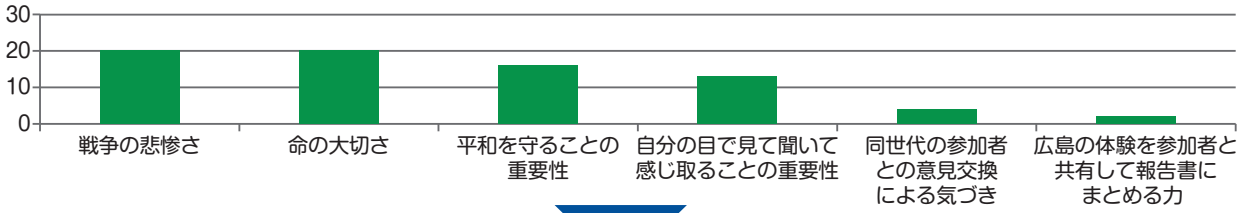
| 【実施前】平和と聞いて連想すること |
|---|
| 花 |
| 私にとって平和とは、戦争やテロが無く、人々の安全が確保された上で、平等に暮らし、お互いの意見や考えを認め合い、尊重し、皆が困難なことにぶつかったときに、声を掛け合い協力ができる。そんな世の中が「平和」。 |
| 笑顔 |
| 争いがないこと。 |
| 日本国憲法・国際連合・沖縄・白い鳩。 |
| 戦争のない国。 |
| 戦争のない世界。 |
| 争いがない。戦争がない。 |
| 子供達が公園を走り回っている。 |
| 戦争がない。お互いを認めあえる。 |
| 世界平和 |
| 戦争・自由・喜び・憲法・日本 |
| 戦争がない。毎日を安全に過ごせる。 |
| 戦争がない世界 |
| いつもと同じ、普通に暮らしていること。 |
| 戦争（戦車・武器）・原爆・広島・長崎 |
| 揉め事がない・笑顔・千羽鶴・かねの音・おだやか・ピースサイン・花・子供・戦争がない・握手・幸せ・ハート |
| 広島・長崎・歌「HEIWAの鐘」・8月6日・8月15日・沖縄 |
| 今の生活・とても大切な時間・テレビで見ていた平和記念式典・誰もが考えないといけない課題。 |
| 戦争をしないこと・目には見えないもの・おだやかなこと・なくてはならないもの・大切なもの・みんなが笑顔で暮らせること。 |
| 戦争・紛争・広島・長崎・沖縄・命・昭和 |
| 自由 |
| 終戦・原爆 |
| 戦争 |
| 戦争のない世界・みんなが笑顔 |

| 【実施後】平和とは |
|---|
| 今の当たり前の暮らし。 |
| 「笑顔」があふれる国でいること |
| 何事もなく日常を送れること。 |
| 争いがなくて、誰もが幸せに暮らせる世の中。 |
| 平和とは戦争（争い）が無く、誰もが幸せだと思える平等な世界。 |
| 平和とは戦争や核兵器等が無く、世界の人々が平等に暮らせる世界。 |
| 皆が幸せに暮らせること。 |
| 誰も争いでけがをせず、何も失わない時。 |
| 戦争をしない国。 |
| 平和とは戦争や、争い、事件や事故がないこと。 |
| けっして当たり前ではないもの。そして、いつ壊れるか分からない繊細なもの。 |
| 自由。 |
| 最初、平和とは何と聞かれた時、「憲法」とよく分からないことを書いたが、平和とは、どんな人も平等に安心して暮らしていけること、戦争がなくなること、命を無駄に捨てない世界のこと。 |
| 誰も身を投げず（自殺せず）戦争のない世界。 |
| 戦争等の細かな争いもなく、豊かに暮らしていけること。 |
| 自由に安全にいられること。 |
| 平和とは気付かないもの、例として、家族、環境等。 |
| いじめ、自殺、戦争がなく、私達国民が意見を言えること。周りのことも配慮すること。 |
| 皆が意見を述べることができ、人が人として生きることのできる世界。日々の何気ない幸せが実感できる世界。 |
| 人と人との争い事のない世界。 |
| 戦争が起きない。治安が良い。国民全体が笑顔で過ごしていて、政府のことを信頼している。普段の生活でもいじめがない。核兵器がない。 |
| 皆が心から笑い合えるということ。戦争中は誰一人心から笑えた人はいなかったと思う。皆が今を生き抜いていくことに、精一杯で、生きることの楽しさを忘れていた。今は、「明日席替えだー」とか、何気ないことの楽しさを感じ、生きることが楽しい。普段、「楽しいと思えること」と、「平和」を結び付けて考えることはあまりないが、何も考えずに、楽しいと感じることが、どれだけ幸せで平和なことかを知ることができた。「平和」は目に見えないが、とても大切なもので、1人1人が大切にしていかねばならないもの。 |
| 生命の尊厳、非暴力。 |
| 戦争、差別、争いのない世界。平等、慈愛、幸福のある世界。 |
| 私が思う平和は戦争がない事は勿論、いじめも犯罪もない世の中だ。全員がもっとよく戦争について知る必要がある。 |
| 核兵器がなく、皆が笑顔な世界。 |

実施前は、「平和」や「広島」について漠然としたイメージを持つ参加者が多くいました。実施後の回答を見ると、実施前のイメージに明確な肉付けができたり、当たり前にあるものに感謝の気持ちを感じたりと、参加者それぞれが戦争や平和について真剣に考えたことがうかがえます。参加者には、非常に気づきの多い学習の機会となりました。

| 【実施後】実際に行った後の広島のイメージ（抜粋） |
|---|
| 「広島」=「原爆」という印象だったが、「広島」=「原爆によって故郷や家族を亡くした人々が互いに助け合っている広島」と感じた。 |
| 原爆の姿が生々しく残っていて、見ていて辛くなるものもあったが、後世にもしっかりと伝えてほしい。 |
| 原爆が落とされた県だからこそ、学べることがいっぱいある。 |
| 原爆ドームなど、原爆の悲惨さをありありと語ってくれる町。 |
| 戦争について強く語ってくれて、平和がどれだけ大切なのかを教えてくれる場所。 |
| 原爆が落とされても、力を合わせてここまで復興した活気あふれるところ。 |
| 広島に行って、資料館等で見た写真は一生忘れない。 |
| 戦争の爪痕が残りとても悲惨だった。しかし、広島の人々が、広島を大切にしていることが分かった。 |
| 平和について深く考えている。海外の人々からも注目されている町。 |
| 「忘れてはいけない歴史がある」。現在も後遺症や、記憶で苦しんでおられる方がたくさんいることに驚いた。広島は、他の地域や国にはない悲しい歴史がある。風化させず、世界中の人が知る事で、広島で起きたあやまちを繰り返さないでほしい。 |
| 広島平和式典よりも、被爆者体験の方が良かった。原子爆弾は、悲惨とか、無残と聞いていたが、自分の想像を超えていた。 |
| 多数の死者が出たのは、原爆だけではなく、後遺症や、空襲なのだと知った。 |
| 緑が多く良い所だった。とても70年前に焼け野原だったとは思えなかった。 |

| 【実施前】本事業で何を学び、得たいか | | | | | （単位：人） |
|---|---|---|---|---|---|
| 戦争の悲惨さ | 命の大切さ | 平和を守ることの重要性 | 自分の目で見て聞いて感じ取ることの重要性 | 同世代の参加者との意見交換による気づき | 広島の体験を参加者と共有して報告書にまとめる力 |
| 20 | 20 | 16 | 13 | 4 | 2 |




| 【実施後】何を学び、何を得たか |
|---|
| 平和について学び、争いに対する新しい気付きを得た。 |
| 広島派遣で学んだことは数えきれないほどある。特に、これから次の世代に伝えていきたいと思うことは、「戦争によって失うものの多さ」だと感じた。 |
| 平和の大切さ。 |
| 戦争の悲惨さや、恐ろしさを学び、戦争についての知識を得た。 |
| 戦時中の出来事（悲惨さ）を学び、自分は平和な世界に生きていて幸せだなと思う気持ちを得た。 |
| 原爆の事（後遺症、被害、威力）・大和艦隊の事・原爆の知識を得た。 |
| 戦争、原爆の恐ろしさを学び、戦争は２度と起こさないようにする。 |
| 本当の平和・昔の日本。 |
| 命の大切さ。 |
| 本事業では、戦争や原爆の悲惨さを学び、平和とはどうゆうものかを考えることができた。 |
| 平和はけっして当たり前ではない。核兵器は後遺症で死ぬまで苦しめられること。戦争について伝える人々が少なくなってきている。次の世の中を担う私たちが、戦争についてもっと知らなければならない。 |
| 平和を学び、知識を得た。 |
| 戦争の恐ろしさを学びたいと思い参加をしたが、更に行ったことにより、命を大切にすることと、たくさんの意見を聞いて、自分の考えを持つということを学んだ。また、今回参加をした中で私が最高学年だったので、年下の人から頼られることが多く、１つのグループを引っ張っていくこと、グループ全体で動くことの大切さを知った。 |
| 戦争は関係のない人々も死んでいく。戦争は勝つも負けるも失うものが多いこと。 |
| 特に、核爆弾の恐ろしさを学び、これからもずっと戦争のない社会を築こうと思った。 |
| 自分達が自由で美しいということを学び、戦争は人の心に傷しか残さないことが分かった。 |
| 戦争の悲惨さ、命の大切さを皆に伝えていかなければならないと思う。 |
| 本当の平和・実際にあった戦争・広島の復興力の凄さ。 |
| 戦争は本当に愚かなものだと思う。人は目、口、手、耳がある。今回、平和学習を終えて、この目、口、手、耳の重要性を痛感した。目で人をしっかり見て、特徴をとらえ、口で自分の意見を言う。手で色々な人と触れ合い、握手をしたりする。耳で相手の意見を聞く。手があるのは武器を使うためではない。人の意見を聞き、自分の意見を言えれば、戦争は起きないと思う。 |
| 平和の大切さ、戦争の恐ろしさを改めて学び、後世に伝えていこうという気持ちを得た。 |
| 戦争の悲惨さ。後世に伝えていかなければならないという心。原爆の恐ろしさ。当たり前の生活がこんなに幸せだという実感。 |
| 普段の何気ない毎日がどれだけ幸せで、平和なものかということ。「地域の戦争・平和学習会」では、身近なところの戦争を知り、「広島派遣事業」では、広島で起きた悲しい歴史を知った。今ある平和は、１人１人が大切にしていかなければ崩れて、あの悲惨な戦争を繰り返すことにつながる。今、築きあげた平和に感謝をし、後世に語り継いでいくことが重要だ。これからも、平和を続けていくには、どうすれば良いかを考え続ける。 |
| 被爆者、そうでない人の両方の意見が分かった。 |
| 人から聞いたことと、自分で見たり体験することは全然違う。この広島の体験は一生の財産になると確信した。 |
| 戦争について。もっと知りたい、知ってもらいたいと思った。そして、初めて会う友達との時間が楽しかった。 |
| 平和の大切さ。命の重要さ。今までに学んだことのないものを学んだ。 |

本事業の実施前に、参加者に「何を学び、得たいか」を聞き、実施後に「何を学び、得たか」を自由に記入してもらいました。参加者は、実際に広島にも行き、様々な経験や学習を通して、戦争や平和について多くの気づきを得ることができました。参加者は、事業を通じて、それぞれに様々なことを考え、戦争の悲惨さや平和の大切さを後世に語り継いでいくことの重要性を学びました。次代を担う中学生たちにとって、実りの多い事業となりました。

| 【実施後】地域の戦争・平和学習に参加し、身近な地域での戦争について感じたこと（抜粋） |
|---|
| 例え今が平和でも、今、自分が住んで生活をしている場所で、人が大量に殺されたということに驚いた。 |
| 直接その地域に行き、学習し、当時のことがよく分かった。もう2度と自分達の町をあんな風にしたくないと思った。 |
| 東大和市、東村山市のどちらも戦場で、大きな爆弾が投下されていた事を改めて知って驚いた。 |
| 自分たちが平和に暮らしているこの町も、かつては戦場だったと改めて実感した。そして戦争はけっして他人事ではないと思い怖くなった。戦場だったこの地が今の平和な町になるまでに、たくさんの苦労があったのだろうと思った。苦しい戦争を乗り越えて、この平和な町を作ってくれた人々に感謝をしたい。 |
| 東大和市も戦争の被害があり、今はマンションや道路になっている場所が焼け野原になっていたことや、東大和市と東村山市が学童疎開を受け入れていたことにも驚いた。変電所の中に入るのは2回目で、所々に爆弾の穴が開いていてとても恐ろしかった。何気なく普通に生きているということが、戦時中は当たり前でないことに驚いた。 |
| いつもは何気なく安全に過ごしている毎日だが、昔はとても怖く、安心して眠れない日々だったということ。 |
| 戦争はどんなに恐ろしいものなのか、私の身近にも戦争というとても恐ろしいものがあり、涙しか出なかった。 |
| 東村山市にも空襲が来て、大変だったことが分かった。日本も疎開したことや、お金の質が悪くなったこと、学童集団疎開を受け入れたこと等が印象に残った。 |
| 自分が生まれ育った町で、戦争があったということを初めて知った。以前、変電所の話を聞いたことはあったが、見たことはなかった。初めて見て、ここで起きた戦争はこんなにも悲惨で大切な人を亡くし、悲しんだ人が何人いたことだろうと考えさせられた。 |
| 自分達の住んでいる地域は、東京都でも、23区外でとても都会とは言えないが、何故空襲の被害を受けたのだろうかと、疑問に思っていたが、都会か否かは関係なく、戦争に力が入っていて、それどころではなかったのだと思った。また、疎開者の受け入れをしているのは凄いと感じた。化成小学校が、化成国民学校として、児童疎開を受け入れていることには、とても驚いた。 |
| 東村山が戦争の被害にあっていたことが分かり驚いた。変電所の中に入ったことがなく、入ってみて、意外と狭く暑かった。壁の銃弾跡を見て、今は平和だが、変電所を残している理由や、当たり前の暮らしがどれだけ幸せであるかという気持ちを忘れないためであることが分かった。 |
| 自分の住んでいる身近なところにも、赤坂の方から集団疎開をしてきたり、爆弾が落ちて人が亡くなったりと、戦争は身近なものだったということにとても驚いた。今まで戦争は、外国と日本という国だけのものと思っていたが、何も関係のない一般市民を巻き込んでいたということを初めて知ることが出来た。東村山のふるさと歴史館は、小学校の時も行ったことがあるが、改めて、その時は感じることができなかったことを感じ、「銃後と前線」を詳しく学ぶことができた。 |
| 戦争と言えば、広島や長崎等で、自分達の住んでいる、東村山や東大和にまで、被害があったなんて驚いた。変電所やふるさと歴史館を見る限り、田舎でも戦争があり、むごさが分かった。 |

| 【実施後】その他、感想（抜粋） |
|---|
| 「原爆」、「戦争」は自分が思っていた以上に無慈悲で、日常、笑顔を奪い去ってしまう無意味な争いだと感じた。 |
| 広島に行ったことで、今までよりも詳しく原爆のことや、戦争のことを知れて、それらの恐ろしさも改めて感じられたので行って良かった。 |
| 戦争について学べ、私たちが、次の世代へ伝えていかなくてはならないと思った。学んだことをたくさんの人々に話していきたい。 |
| 参加をして「核兵器の本当の恐ろしさ」「戦争によって失われた命の多さ」「死者への追悼」を学んだ。今は戦争があったことも分からないくらい、発展していっている東村山市と東大和市だが、戦争による多大な被害を受けた2市でもある。広島より、規模は小さかったが、やはりたくさんの命が亡くなった。今、机に座って字を書いたり、友達と連絡を取ったりすることが、当たり前ではなかった時代があったのだと思うと、1分1秒を大切に生きたいと思う。勉強をするにも、空襲に怯えながら字を書くことは、ストレスが溜まってしまう。日本という国で起きた戦争を忘れてはいけない。中学3年生の私ができることは何なのか考える必要がある。 |
| 初めて広島に行ったが、こんなに内容深く戦争について学ぶことはなかった。「戦争」と気軽に言えるが、戦争ほど恐ろしいものはない。広島に行き凄く良かったと思う。 |
| 戦争を知らない人々が増えている今、戦争のことをたくさん知り、皆が1人1人のことを考えなければならない。 |
| 今の生活がとても幸せであることを実感した。戦争は何よりも愚かなものだと思う。切明さんのお話に「戦争は地獄よりもむごい」という話があり、2度と地獄よりもむごい戦争を繰り返すことのないように、私達が今の生活を守らなくてはと思う。 |
| 歴史が大好きで、戦争についても知っていると思っていたが、実際に学んでいくと、知らないことばかりだと気付いた。 |
| この取組を毎年続けていって欲しいと思った。平和という意味を本当に知ることができる。参加をして、一歩成長ができた。 |
| 平和についてだけを学ぶのかと思ったが、ホテルでのバイキングや、お好み焼きを食べたり、知らない友達と交流を深めたりと、とても思い出に残るものになった。こういった楽しいことがあったからこそ、学ぶものをしっかりと学ぶことができた。また、今までは、あまり見ることがなかった、戦争をテーマにしたニュースや、特集番組を見るようになり、関心を持つようになった。もっと皆に、戦争の悲惨さと、平和の大切さを知ってほしい。 |
| 今回の事業で戦争の悲惨さを知った。命がどれだけ大切か、核兵器がなくなれば、どれだけ幸せかを、自分自身で感じることができた。広島、原爆、辛いものもありましたが、受け止められた。事業に参加できて良かった。 |

# 東大和市平和都市宣言

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。

世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

平成２年１０月１日宣言

# 東村山市核兵器廃絶平和都市宣言

地球上には、全ての生命と文明を一瞬にして滅亡させてなお余りある核兵器が存在し、人々はその脅威にさらされている。

世界唯一の核被爆体験を持つ国民として、いかなる地域においても、再び広島・長崎のあの惨禍を繰り返してはならない。我々市民は、核兵器がいかに悲惨なものであるかを、全世界に強く訴えるものである。

東村山市は、瞬時に自然を破壊し、人類の滅亡をもたらす核兵器の廃絶と、人類永遠の平和の願いをこめて、「核兵器廃絶平和都市」であることをここに宣言する。

昭和62年9月25日
東京都　東村山市

**平成 27 年度**
**東大和市・東村山市**
**地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業　報告書**

平成 27 年 12 月発行

編集・発行
東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会
• 東大和市企画財政部企画課
東京都東大和市中央 3-930
電話　042-563-2111（内線 1425）
• 東村山市市民部市民相談・交流課
東京都東村山市本町 1-2-3
電話　042-393-5111（内線 2558）